

911.3
ル
3

佛指十卷卷之三
三



類題十萬句集初編秋之部目錄

燈衝梔星七冷初七

篔簹葉別夕秋月

八丁 十丁 三丁 初丁

坂迎盆天星初殘文

菴火川今宵月暑月

七丁 四丁

瓜魂魂貸星稻煉左

馬糊奠小袖合妻嬾秋

丸丁

邊糊生身左星花初

飯經十一魂十一琴迎火六丁

今朝秋三丁

秋

施餓鬼 十二
 送火 十四
 墓參 十八
 相撲 十九
 踊 十三
 忘扇 十四
 二百十日 十八
 露時雨 十八
 相撲 十九
 土俵入 十六
 露 十八
 露霜 十九
 霧 十九

木槿
 常山花
 桐一葉 九一
 柳散 九二
 藤袴
 桔梗 九三
 芙蓉 九六
 秋海棠 九五
 女郎花 九七

荻 九八
 芒 九二
 花芒 九二
 萩 九三
 小車 九四
 瓢卷 九五
 水引 九六
 早稻 九七

稻花 九八
 蓮實飛 九九
 落氷 一〇〇
 殘氷 一〇一
 鉈豆 一〇二
 瓢水 一〇三
 水引 一〇四
 殘氷 一〇五

秋蝶 九八
 秋蟬 九九
 蜻蛉 一〇〇
 秋螢 一〇一
 鈴虫 一〇二
 茶立虫 一〇三
 竈馬 一〇四
 蟪蛄 一〇五
 蛸出鷹 一〇六
 鳴子 一〇七
 鳴芋 一〇八
 引板 一〇九
 案山子 一〇〇

秋之中
 八朔 一二
 田面日 一三
 仲秋 一四
 長夜 一五
 秋寒 一六
 夜寒 一七
 秋分 一八
 朝寒 一九
 秋夜 二〇
 秋雨 二一

待宵 二二
 初汐 二五
 秋望月 二六
 月見 二七
 各月 二八

今日月 四十九

了今宵 五十一

十五夜

十六夜

月

月雲 五十二

月雨

放生會

收鳥

駒迎 五十三

尾花 五十三

紫苑

雞頭 五十四

木犀 五十五

蕎麥花 五十五

花野

大藜

藜穗 五十六

川萱

萱積

芦穗

薦穗 五十七

木通

鬼灯

唐字

稻 五十七

懸稻

稻川

中稻

晚稻 五十八

稻舟

稻穗

綿取

大豆 五十八

粟

黍

芋 五十九

苳 五十九

芋子蒔

芋

菌 五十九

卜治 五十九

松茸

松露

蟋 六十一

蚯 六十二

渡鳥 六十三

燕歸 六十四

雁 六十一

鴉 六十二

鳴 六十三

木鳥 六十四

鷄 六十一

小雀 六十五

掠鳥

鶺鴒

鳩吹 六十七

稻雀 六十五

鶺鴒

鹿

落點 六十七

波點

鰍

彼岸

砧

擣衣

鰍

彼岸

秋之下

九月 七十

長月

斜市

后月

十三夜 七十三

月名殘

秋山

秋雲 七十三

秋 七十四

秋水

秋霜

秋空

菊 七十四

白菊 七十五

十日菊

殘菊 七十九

秋

菊酒 米 柿 紅葉 八十一

草紅葉 八十一 柿紅葉 八十二 柞紅葉 柚

惟実 落栗 草実 柘榴

朽実 山菜蔓 八十三 馬瓜 梅 嫌

粉了 今年米 川田 落穂

新蕎麥 新酒 除醪醖 八十四 濁酒

柚味噌 秋暮 行 秋 八十五 九月尽 八十六

秋名残 八十七 末秋 冬 近 秋題 八十八

類題 下萬句集初終秋之部上

洞海舍涼谷編

一具菴 一具校合

七月 七月やちううきか借酒 札月
文月 文月よ秋はるる移りけり 常月

文月やちううきか借酒の味 夕山

秋起の面をり秋文月よ秋 云臺

文月やちううきか借酒の味 古臺

文月やちううきか借酒の味 通流

文月やちううきか借酒の味 宇野

立地

秋

立秋

文曰や木の葉より雪の仙の町
若木の梢より秋立垣の
何となく秋の立ち居る山に
棟上孔帯より秋の且うれ
峰をよや雲を懸く秋の
秋のふや秋のふや秋のふや
秋のふや秋のふや秋のふや
秋のふや秋のふや秋のふや
秋のふや秋のふや秋のふや
秋のふや秋のふや秋のふや

青峰 雨櫃 水 全 百考 杏園 文海 相宜 下

今陳秋

秋のふや秋のふや秋のふや
秋のふや秋のふや秋のふや

易来 鼎湯 史子 菜粉 桂丸

今朝秋

あやむや何事のおこす秋の立
くもくもく秋のまじりて菴うらな
秋のつや米をまきまきの秋の米
去秋の厚あはれくもくもくもく
今秋のまじり秋の本城はつらつら
玉ふゆふ味の付くくもくもくもく
まじりくもくもくもくもくもくもく
秋のまじり先くもくもくもくもく
初秋の禮くもくもくもくもくもく
井戸端の古れ需くもくもくもくもく
葉をまじりくもくもくもくもくもく

青雲 二丘 鼎湖 杉舎 奇松 四明 山権 夕山 呂山 呉米

秋

秋なる物も涼しくもけける秋
清なる電の連なりくもくもくもく
何るよよ米をまきまきの秋
華をまきまきまきまきまきまき
秋をまきまきまきまきまきまき
涼くもくもくもくもくもくもくもく
葉のまきまきまきまきまきまき
小庭のまきまきまきまきまきまき
秋のまきまきまきまきまきまき
秋のまきまきまきまきまきまき
秋のまきまきまきまきまきまき
秋のまきまきまきまきまきまき

山権 相宜 素心 松和 二丘 権嶺 横海 幻芝 雜用 古翠 素考

初秋

銀屏子熟の香やけしみの林
 待てぬ人の来も床に女を寝
 憫一ツ世のなぐりけしみの林
 後頭子髪とけしみの林
 その秋の風の舟並や柳の雨
 初秋や夕紀よき人の子
 その秋や社文傳く遠く伏見船
 初秋や毎糸を伝ふ花春
 初秋や細毎くはるる子
 初秋やよんへの雨の偏り
 入江の松の影も光り

涼谷 布席 桑駒 相宜 四郎 玉輪 素女 壽堂 芳画 文菊 穂糸

残暑

初秋や百々の初世なる字の中
 一ツ世や他よかある木の初平
 一初初。白の吹秋暑く冬
 兄とてしも秋の暑も秋
 苗葉の臭う侍とて秋暑く
 生相を離れも暑く秋暑く
 松のそ花大きく秋暑く
 暑のそもく秋暑く
 桂樹の小初暑く暑く
 庭のそも暑く秋暑く
 粟の穂の風も秋暑く

青丸 涼谷 謙平 白山 乐有 川長 彼文 陶惆 芍薙 権嶺

秋 蠧 初 嵐

第一木子跡る是也幸中一丈
三ノ秋の多し〜跡是兄跡不
凡夢の如く〜跡る跡是不
大句の一返通る跡是不
三ノ内を以つて先か〜跡是不
歴々を〜〜跡は跡る是〜於
望の秋の〜〜強〜〜堀の内
林の秋を跡る〜〜た〜物も是
五〜ま〜青月は〜初嵐
ふと来ると志の〜初嵐
風子志気冨〜初嵐

高よ女
鼎粥
今
昔
一具
巢斗
椿海
一南
字弘
大宮
桂海

冷 初 月

少結う枝の宿常月不初ありし
冷あ少少の秀や〜里の空
初月〜や尾草〜初月
穉若〜や〜初月
初月〜や〜初月
義也の義も〜初月
去の月〜初月
初月〜や〜初月
初月〜や〜初月
稲妻や〜初月
以の〜初月

何手
庭雨
古川
文里
竹岫
燕壺
篠山
難用
涼谷
夕山
苜苔

稻 妻

詠事

稻妻よあられはすも女奴子の種
以多のまの橋を来るとの原の定
以多のまや枝の末持のぬ家も
稻妻よ不才虫原の夕の
稻妻よ持てん舟ははるる
以多のまや持物言ふ舟より
稻妻よ何れと海北の海
稻妻の朝の海も大阿武
以多のまや舟の中の杭二本
以多のまはかきくもや佃島
稻妻よ海も海も海も

常陸

山雄
荷子
文望
浦山
石丸
吾子
了庵人
素丸
彼上
瓶乙
古厚

〇〇
五五

吟風

稻妻よ大の島島九芋畑
以多のまや兄をぬ人の能く
以多のまや二人持てん舟ははる
稻妻よ通つぬけと八重原
稻妻よ枝は兄を長
以多のまや屋松を携へて二交
稻妻よ懐きとるもや海も橋
以多のまや橋をへとる木橋
稻妻よ考松の博の弓子
稻妻のまはく軒や枯何や先
以多のまや海も海も海も

然原
舞母
多よ女
嵐高
庚年
史子
由華
月况
今
長考
謝書

私

花火

稲妻や煙子律の宵の宵
 七耀の海光く向くあやふ
 雲の灯々吞喰とて花と舟
 暫くも海へしあやふ星と舟
 との山も低くもささるおきふ
 竹の葉子埃のうらる花火く礼
 人々の中子廣るおきふ
 峯と色し一夜の宵も花火く
 字子並家を集く於年やの
 七夕やとせとてとてあ佳
 七夕は仲とてとてとて陳屋か

涼谷 芦帆 糸求 丁吉 工直 知機 松常 松原 不曲 夕の 粗年

七夕

あつた星は人の心は光る
 七夕なり方星と一板の控うね
 七夕やとて波音と板のあふ
 七夕やとてはつ神とぬ宵の内
 七夕のあつたあつたの 梓と草
 七夕やとてのうらあよ子世妻
 星々宵極の秋より穠(ゆ)し
 羨の心もも森とて六五八星々宵
 星の尾よとてとてとて星々宵
 との星もとてとてとて光る

川長 高の山 松原 半丈 布席 熟菓 菘菜 抱琴 久藏 菜粉 一船

星今宵

星合

星合

星乃や好く考ふ舟と橋
布し言や不と能信の由事
星達の死考考みひ難く
及妻の死と考ふや星の考
考星よ人の考うむ考く
考は考子の考考星の考
考考子の考も出考考星
星の考考考考考考考考
考考考考考考考考考考
考考考考考考考考考考
考考考考考考考考考考

其廣
如仙
禱也
南考
強浦
実翠
如旭
積海
何弓
文倫
文光

星迎

星別
天の川

あつた考考考考考考考
併考考考考考考考考考
星考考考考考考考考考
人考考考考考考考考考
考考考考考考考考考考
考考考考考考考考考考

去子
兼徑
令也
壯賞
眉蕉
文光
彌西
笑壺
不曲
長去
考甚

天の川
異色

箱の馬すく為るや銀河
ての川森志あま晴てお麻上
茶種屋の松蔵まやまの川
はる程よ月も入る天の川
ての川先名屋しと這入り金
夜籠あま吹く程よあま銀河
膏の男は若く承しとての川
漬物屋の河の心とての川
新井の物とての川
晴わると茶の常やとての川
崎一と散ると同じとての川

舞母
今
茶妻
大梅
豊舟
乙負
一具
一梅
一飛
松遊
昔岩

貸小袖

秋

栗布一銀河
おれを浮出とての川
はるくと月の夜とての川
ての川身も志のるを承とての川
貸るも星も情もよ小袖我
あえいと衣を其後貸小袖
物袋を時代物とて貸小袖
貸小袖おれも承とての川

吟夜
蓬海
原谷
今
茶路
栗笑
菊上

立琴

梶葉

立琴よ保とての川
立琴よ保とての川
立琴よ保とての川
立琴よ保とての川
立琴よ保とての川
立琴よ保とての川
立琴よ保とての川
立琴よ保とての川
立琴よ保とての川
立琴よ保とての川

日人
蓬葉
文鬼
一具

秋

八

金

金

権のそよほひけりや
折燈を燭くつるや
多きもの星浮山
あつく多しきまも
家鬼や山の上も
旅人の身屋を物
玉奈も赤も
折燈子孫ま
魂真混難
大津の
枕とる母の葛籠や

高つ六
正令
赤
権
今
札
和
一南
西阜
今
古

魂

魂

生身魂

衝突入

籠のそよほひけりや
玉奈己のとう
お中々
玉真
神文
義
二
わ
持
了
は

如仙
松
乙
易
斗
松
素
易
涼
芳

迎火

迎火の儀の途まゝとて
迎火の儀の途まゝとて
迎火の儀の途まゝとて
迎火の儀の途まゝとて
迎火の儀の途まゝとて
迎火の儀の途まゝとて
迎火の儀の途まゝとて
迎火の儀の途まゝとて
迎火の儀の途まゝとて
迎火の儀の途まゝとて

水 乙 荒 古 子 松 祖 原 雅 嶺 茨 帆 云 子 桂 程 吟 鹿

塙棚

棚經
燈籠

塙棚の儀の途まゝとて
塙棚の儀の途まゝとて
塙棚の儀の途まゝとて
塙棚の儀の途まゝとて
塙棚の儀の途まゝとて
塙棚の儀の途まゝとて
塙棚の儀の途まゝとて
塙棚の儀の途まゝとて
塙棚の儀の途まゝとて
塙棚の儀の途まゝとて

茶 路 子 松 竹 系 云 子 松 和 巨 臺 半 丈 八 朗 大 貴 月 峴 然 泉

切馬

竹まゐる物の終りやうとうい
樹くのうまきけく(来)とうい
森終るえくけいの燃電
終るや運るも程照り
義被り生妻のうとうい
花押の暖笑あな焼着
松袖の切子のけうう
瓜のうのけく終るは掃
瓜のうのけく上る手
おはげの灯籠は
運の終りや

塵

の陣
芦
巨
之
荷
惟
田
品
五
布
二

蓮飯

施餓鬼
迷火

墓糸

子孫のきり苦痛のあや施餓鬼
送るや母のうん 庭の先
送るよんをのうん 庭の先
内納の娘兄の来るや墓糸
伝橋のうんをのうん 墓糸
人の子のうんをのうん 墓糸
上下るをのうん 墓糸
墓糸のうんをのうん 墓糸
母のうんをのうん 墓糸
粘る人のうんをのうん 墓糸
お庭のうんをのうん 墓糸

民
糴
斗
友
玄
二
核
吟
橋
五

盆月

秋

壺の月並ひ市市一人の来
 形をよの事もあつて壺の月
 乞食の残帳の如く壺の月
 ちりまき中をさそひや壺の月
 故に憐れを乞ふと出さる壺の月
 他方の貧乏をかたけに壺の月
 時その橋影一や壺の月
 葛藤の林一と更し壺の月
 児遠を挨拶志す壺の月
 あちとと菴に宿る秋壺の月
 壺の月真と店屋のそり花

夕山 道雄 東止 松舎 文鵬 芥井 一幸 篠山 多喜 雅吟 一蕙

躍

妙なる此形飛ちあや壺の月
 の掃くをさくさく壺の月
 女まをさす壺の月
 月夜をさす壺の中へ壺の月
 壺の月をさす壺の月
 秋もや西よ吹ゆる壺の月
 古形人の少少も壺の月
 壺の月をさす壺の月
 壺の月をさす壺の月
 上下へ壺の月
 壺の月をさす壺の月

十瓶 素出 布席 一甫 涼谷 素出 五岨 二丘 右翠 横海 芥石

志をくゞ躍ぐや藤も安ん
 蕙をくゞ物移ぐ待をくゞ式
 橋よも次身のを踊る
 踊るを捨子のくゞ子
 産物よく程く踊る
 をくゞも名をくゞ兄
 伝もくゞ外をくゞをくゞ式
 浮世のくゞもくゞね踊る
 浮世の面をくゞをくゞ式
 加元の子舞く踊る
 をくゞくけて時をくゞあはれ

大宮 謝堂 骨元 純乙 夕山 素子 友之 全 玄子 元鬼 文鬼

一 舞少のくゞもくゞをくゞ式
 踊るくゞもくゞね人のをくゞ式
 児の浮山をくゞをくゞ式
 痲瘡の痲義くゞも踊る
 三年をくゞの踊るくゞも
 庫裡の痲をくゞ引をくゞ式
 踊るのくゞもくゞをくゞ式
 古のくゞもくゞの踊る
 伐採のくゞもくゞをくゞ式
 田のくゞもくゞをくゞ式
 健や踊るのくゞもくゞ式

陸奥 下松

南山 雨竹 其席 元兮 玉和久 二個 方里 古季 氷谷 古橋 桂丸

忘扇

乳のそると一人ぬきと踊式
 出のぬき踊又出るや垣内
 踊をさして押出さきとる踊式
 お撲えの踊る乳さく月夜
 踊るよえよ忘せとる一踊式
 忘せとる扇の通く此方式
 扇を様と操り中らん扇く乳
 舞扇はすの舞子如うりさ
 舞く乳さく如く二万十式
 舟舟の出さり二万十式
 元緒と契結二万十式

陸奥
 文仙
 南山
 月下
 芝菜
 一南
 九来
 二丘
 川長
 了

二百十日

相撲

松の葉子二万十の乳入り
 二万十の舟の夕飯さうり
 松さきとる葉子使とる角力式
 舟人のあふたりお撲え
 兄のけを名美し交角力式
 外料の志れもさくお撲え
 数る家とさきとるや角力式
 舟の羽織とるお撲え
 女乳の面さうりや中お撲
 子お撲を儀とる入り
 舟さきとるの上角力式

笑徳
 正令
 棠郊
 雁壺
 一喬
 夕山
 素五
 古川
 友之
 梅壺
 水

負く親と云ふはや也也也
 此傳をを掛ひし如く字角力
 候も此施るも世傳や也也也
 向葉のうけし也也也也
 於此しと書さるるは也也也
 也也也の字外のあるは也也也
 此也も也也也也也也也
 萩分てて来しは也也也也也也
 夜子畑を踏まも也也也也也也
 人舟の志中し立也也也也也也
 擲角力候の中しを通る也也

栗笑 美文 古翠 貝谷 今 無人 下吉 布席 田葉 右擲 八朶

目録

擲角力といふや角力此也也也
 也也也の山も擲るるは也也也
 本よりくるも此角力也也也也
 也也也の白は也也也也也也也
 走ひるも也也也也也也也也
 候の希絶擲出ん也也也也也也
 人声も也也也也也也也也也
 角力元舟の擲るるも也也也也
 夕此中し米の擲場や也也也也
 角力元舟の擲るるも也也也也
 擲角力元舟の擲るるも也也也也

所風 篠山 月峴 松秀 不曲 一具 有水 雨芳 右擲 字桂 多妻

秋

土俵入
露

露の土俵入
子もあま物よ花よ露の玉
程を移してあはる露の夕に於
新あやあま子枝の露をよま
淋抱て思ひ入るを露の中
あはるあまをあのをあはるやあま
夕あやあまをあまの抱まを
あまのあまをあまのあまのあ
抱まをあまのあまのあまのあ
抱まをあまのあまのあまのあ
抱まをあまのあまのあまのあ

去子
荷乙
古佳
棠郊
岐久
文洲
白起
一之
赤洋
夕山
木百

至露の土俵入の妙有を
権の止して程あはる程のあ
あまのあまのあまのあまのあ
あまのあまのあまのあまのあ
あまのあまのあまのあまのあ
あまのあまのあまのあまのあ
あまのあまのあまのあまのあ
あまのあまのあまのあまのあ
あまのあまのあまのあまのあ
あまのあまのあまのあまのあ
あまのあまのあまのあまのあ
あまのあまのあまのあまのあ

去子
二丘
一甫
寛里
玄々
今
崇里
露竹
木水

土俵入

妻方ハ庫裡ニ出ルヤ土俵入
 手ニ有リ物トモモ上ノ妻ノ玉
 裡ニ秘ル考有ル妻ノ夕ノ於
 於妻ヤ赤子扱ノ益々トモモ
 楳抱テ思ヒ入ル妻ノ中ノ
 出ル妻モ妻ノ上ニ有ルヤ本ノ中
 夕妻ヤ俗名トモモ恒々トモモ
 智消引ヨリ妻ノ上ノ妻ノ中ノ
 妻ノ母トモモ上ノ妻ノ中ノ
 括木ニ有ル妻ノ中ノ妻ノ中ノ
 強トモモ上ノ妻ノ中ノ

土子
 荷乙
 古俵
 棠郊
 岐久吉
 文海
 白起
 一之
 赤洋
 夕山
 木目

妻方又星ノ母ノ妙名
 確ノ止シ程アリ庭ノ妻
 母ノ元ナリトモモ妻ノ於處
 白妻ヤ玉乳ノ妻ノ疎ナレバ
 妻トモモ入ヤ何妻トモモ入
 世ノ白妻ノ妻トモモ上ノ妻
 廣理トモモ母トモモ母ノ母
 白妻ヤ母海トモモ母ノ母
 母ノ妻ノ母トモモ母ノ母
 母ノ夕ヤ母トモモ母ノ母
 白妻トモモ母トモモ母ノ母

若月
 去子
 二丘
 右直
 一甫
 寛里
 玄々
 今
 帯里
 妻竹
 床水

露の粒やまのひまの光う
 玉よりも落るる雲の光うれ
 秋をくひの先子雲の光う
 白露や身まを雲の光う
 蓬生や世まを雲の光う
 あり雲の雲や種のを光う
 何よりも雲の光う
 雲の光う
 有るも雲の光う
 秋をくひの先子雲の光う

元陸
 古厚
 真雄
 不曲
 松市
 有る
 不流
 篠山
 篠山
 確嶺

秋

露時雨

露の粒やまのひまの光う
 玉よりも落るる雲の光うれ
 秋をくひの先子雲の光う
 白露や身まを雲の光う
 蓬生や世まを雲の光う
 あり雲の雲や種のを光う
 何よりも雲の光う
 雲の光う
 有るも雲の光う
 秋をくひの先子雲の光う

壺半
 多山
 斗筵
 氷谷
 典湖
 史子
 布席
 大費
 杜年
 昭眉
 学井

露霜

霧

秋風

雪の戸や時雨寄きく霧の戸
露の戸や赤い葉の宿る庭松の葉
霧の霧の早く下りく霧の何處か
山里や霧の吹込揺ゆり
舟鳴く霧の山表は空のうら
浮きや霧の吹く所二階の戸
西洋の木槿かき霧物常
新雪の吹く所山才
花とく人寄き霧の霧
帯串の宿松の跡まき霧の
雪市の中を吹く霧の霧

難用 二丘 一具 田兼 棠邨 尤琴 凍谷 乐水 松来 蕪水 貫石

霧の戸や時雨寄きく霧の戸
露の戸や赤い葉の宿る庭松の葉
霧の霧の早く下りく霧の何處か
山里や霧の吹込揺ゆり
舟鳴く霧の山表は空のうら
浮きや霧の吹く所二階の戸
西洋の木槿かき霧物常
新雪の吹く所山才
花とく人寄き霧の霧
帯串の宿松の跡まき霧の
雪市の中を吹く霧の霧

若假

千輪 双二 道雄 相宜 今 不着 一甫 春露 岩石 五峴 雪井

情凡の姿見送る那夜
 兼葉色を吹まわしを秋の風
 米穂の身軽く来や秋の風
 世をえんきたる身は秋の風
 榛の本は依りあし秋の風
 情はや到る味き旅の行
 情の足のと長き旅の行
 秋風の来りも重し竹踏み
 衣のの擦りも重し秋の風
 十代の刀を研や秋の風
 くらゐのさ萩の宿秋の風

田 華
 大 橋
 今
 云
 田 華
 李 朗
 乙 老
 耕 雲
 松 起
 美 文
 荳 丘

江の上の秋は清し秋の風
 今も去る夕陽の秋の風
 情はや秋の風
 兼葉色を吹まわし秋の風
 米穂の身軽く来や秋の風
 世をえんきたる身は秋の風
 榛の本は依りあし秋の風
 情はや到る味き旅の行
 情の足のと長き旅の行
 秋風の来りも重し竹踏み
 衣のの擦りも重し秋の風
 十代の刀を研や秋の風
 くらゐのさ萩の宿秋の風

出羽
 山 有
 岸 舟
 宇 丈
 松 美
 多 女
 羊 山
 原 谷
 兼 他
 一 具

秋風を如く掃く掃く木櫃垣
舟楫の一行もを枯れぬ
秋風を如く掃く掃く木櫃垣
秋風を如く掃く掃く木櫃垣
秋風を如く掃く掃く木櫃垣
秋風を如く掃く掃く木櫃垣

鼎湖 丁方 吟歩 小圃 南園 一蕙 布席 今 松東 笑語 桂葉

出羽

桐一葉

秋風を如く掃く掃く木櫃垣
秋風を如く掃く掃く木櫃垣
秋風を如く掃く掃く木櫃垣
秋風を如く掃く掃く木櫃垣
秋風を如く掃く掃く木櫃垣
秋風を如く掃く掃く木櫃垣

桂葉 白起 文鬼 芭角 斗園 鳳毛 文海 白起 柳葉 素心

其修より至る兄やう相一を
五上より兄社に世を産一茶也
其後よりより相の一茶也
生や枝の市を産ひ只や相一茶
多もつて而る者も一茶也
相一茶産て其後一茶も
初より終まで一茶も
大様の止りをちるや相一茶
臂の白のくゆるや相一茶
指より柳相の一茶や井の色
相の色を産て其後一茶也

其月
云子
二丘
素色
帯笠
水
石
虎
波丈
湖
右橋

柳散

梅散や河と死一茶を八人
雲のつてを産て相一茶也
そのよりより一茶也
産てよりより相一茶也
稻妻のよりより一茶也
一茶也柳一茶も早も
柳のより産ひ一茶也
柳一茶もやより一茶也
田一茶也一茶もや柳も
柳も一茶もや一茶も
何れも一茶も一茶も

東止
右機
巢乎
不曲
左来
雨行
鼎湖
若葉
柳
市不
意他

木 槿

赤々やとまゝ向くも柳たる
松影や木の向く木の柳たる
まをうとそをうとの柳 若
姥まゝの柳の向く木の柳たる
母物をまゝの切木槿也
目まゝの木の向く木の槿
風影のまゝを槿する木の槿也
先垂るの柳の向く木の槿也
修室の竹まゝの木の槿也
恙なく木と木と向く木の槿也
まをうとまゝの槿の向く木の槿也

確 嶺
桂 九
木 水
李 朗
幻 芝
雨 考
札 月
一 家
夕 山
雪 芝
槿 海

常山花 朝貝

修室の柳や 柳乳白木槿
修室の柳や 柳乳白木槿也
柳乳を柳交向く木の槿乳
修室木槿也 過修室
麻々向く木の槿也 柳
小刀の向く木の槿也 柳
先垂るの柳と木の槿也 柳
とく向く常山ハハの向く木の槿也
朝貝や 柳も向く木の槿也
暮や 雪も向く木の槿也
朝貝も向く木の槿也 山の風

梅 園
祖 中
多 女
角 之
荷 堂
呉 澤
松 考
雨 考
夕 山
一 之
槿 海

朝鳥や志せ物くる葉の使
 暮しのゆきもなまき月夜
 朝鳥や志せ物くる葉の使
 暮しのゆきもなまき月夜
 朝鳥や志せ物くる葉の使
 暮しのゆきもなまき月夜
 朝鳥や志せ物くる葉の使
 暮しのゆきもなまき月夜
 朝鳥や志せ物くる葉の使
 暮しのゆきもなまき月夜

一之 裁星
 昔谷 帆
 今 南
 蚕浦
 松海
 兀号
 双二

今も度終の朝鳥暮ひ
 暮ややるをなまき月夜
 朝鳥や志せ物くる葉の使
 暮しのゆきもなまき月夜
 朝鳥や志せ物くる葉の使
 暮しのゆきもなまき月夜
 朝鳥や志せ物くる葉の使
 暮しのゆきもなまき月夜
 朝鳥や志せ物くる葉の使
 暮しのゆきもなまき月夜

流石
 羽人
 芭南
 暮松
 二晶
 愚中
 超空
 篠山
 雁嶺
 多女
 全

於息や呼子く陣く庭の口
 葦のちも雪のうをり
 幸ふよ葦恒毛けく交る船
 於息や妙くくあつ瓶の傍
 何き息や境抗舟明や交
 安き歌や葦よあつるもつ
 御座の葦市居る歩を式
 於馬や於起まも初子の内
 然る市やあつるふよ山の靴
 葦の終後少習子相く色
 桂もきぬ於息朝あつ式

大 梅
 久 藏
 貝 谷
 幻 芝
 二 了
 禾 木
 全 品
 奥 人
 芋 子
 貝 谷
 一 具

葦や葉をへる方よ又一つ
 吹くけと於息よ舟きよるを
 於息のちよ曇るぬ戸口式
 何き市や凡てくあつる色
 葦よ帆けけは危悟の外
 於息や葦表あ交るの恒
 於息やれくあつる色
 葦のちも雪と葦色く
 於息の何の内よ歩ん桂く於
 葦よよ急きを舟く一重帯
 於息や呼子く人のあつ式

全
 葦 物
 一 蕙
 一 付
 布 席
 大 費
 古 棧
 扇 花
 白 桂
 多 安
 桂 丸

蘭

藤袴
桔梗

朝白や隣 空まの神もま
 初あの日白ちんくふい色
 朝白や身仕落拵ふ少似味
 暮のあふひ氣さう涼う船
 朝白くぬる乳ちもまま色
 葉のまや極く拵出ん少気
 葉のまやまうう 這入情の原
 葉のまよ只鞆有る月表
 拵ゆよまうくま不や花袴
 けし金懸さうう 桔梗ま
 白ひのよふらと尻南の拵ま

江戸

龍化 赤萼 巢乎 文来 田華 水 文和 松和 桂秀 お赤 号道

芙蓉
秋海棠
女郎花

花朝の出まをさうう 桔梗
 雁ううう朝毛撰出ん 桔梗
 浮も一人拵さぬあふ芙蓉
 為るまま夕氣さうう 秋海棠
 多うまをまのあ気め命知
 其中を名の免さうう め
 女らのまま夕氣さうう 強
 夕暮や拵よ親出さうう め
 夕暮のけを曲さうう め
 拵さうう 及只家さうう め
 拵せと暖面さうう 咲く女郎花

花海 二了 芙蓉 草井 三柳 唯嶺 五和久 阿弓 榎海

蒜

およろしくとてへ首ふりて埋まれば
勝り出さく身振也大や蒜の
生る尾は折く事て蒜や蒜の
蒜のち日乳露するのよう振りて
葉中赤ん常上蒜の江赤ぬ
様ふ白て赤の形も也蒜の
丸先より白くほりて埋まれば
赤く蒜や葉がく月の出る
赤くもくけて月赤くもく埋の蒜
赤んて大形の事ぬ事也蒜の赤
蒜とくも大さき事よるわあ

吟履 田事 昔谷 香家 文仙 太拳 徳来 栗笑 文里 祖事 芽谷

蒜新し新也色赤の赤丸蒜
産輝ハ蒜洲()もまの花
赤穂赤も子蒜もも蒜の赤式
蒜の赤産輝赤下蒜赤と赤を赤
赤るうと色を赤くも蒜の赤
かりくの厚生赤のや蒜の赤
蒜出ん蒜や蒜よ赤くも
形もく蒜ももくもく
蒜く赤も蒜く赤もく
赤の蒜赤も赤もく及く
蒜赤も赤もくもく赤も

友之 道雄 蜀錦 一甫 一甫 企 務阿 素也 勘之 玉和久 古翠

下弦 名破

ちよよの岬出ん萩の風情は
 ろ香るく望のくくを望の如
 儀然ふ海も持を萩の星
 形ぬけのくぬれぬく萩の如
 蘇の岬菴へ月ももようやう
 以く香るくく萩の如、萩の事
 柴の世くく人の如くく萩の月
 兄撫子の何れともはくん萩も
 聖の為そ萩の如くく、
 了市の候く味やをさるの如
 庵く人の萩や小舟の如く

東川 宗形 岩鏡 丸来 田華 葛松 蕙丘 松原 長虎 松宗 菓平

折枝の如くく中く萩の如
 萩の如の如くく何の如く
 葉の如く極小程家持ぬ萩の如
 学種くく、何の如くく萩の如
 菴く厚萩の如くく、
 ちる萩や藤忽く這入則るを
 岬もくく己とくく、小萩の如
 振袖も萩もくく、
 萩の如くく、
 萩の如くく、
 萩の如くく、

出羽
 知機 菅菴 篠山 橋海 久藏 高堂 松竹 志省 鼎洲 一具 柔新

秋の聲をきく事さうして林のまぎ
風の輕い玉を走らしたりも
秋の聲をきく事さうして林のまぎ
風の輕い玉を走らしたりも
秋の聲をきく事さうして林のまぎ
風の輕い玉を走らしたりも

布席 鼎湖 史子 桂秀 大貴 謙平 松秀 幻芝 謙平 桂葉

萩

萩の葉をきく事さうして林のまぎ
風の輕い玉を走らしたりも
萩の葉をきく事さうして林のまぎ
風の輕い玉を走らしたりも
萩の葉をきく事さうして林のまぎ
風の輕い玉を走らしたりも

杜賞 政喜 文来 吟震 可乃 文来 氷谷 雪也 謝堂 其笑

秋

芒

蕨以也女も並ぬ志何系
 凡先子まきり之蕨の考
 此のよきありの蕨此等凡此
 鳴まらん是はよきや蕨の声
 百箇のよき教けり。まきり如
 字のよの如くも是る為に
 鳴かすや此や花に二五の
 初先の自地と遠ま為るに
 神木のまきりまきり。為るま
 此のよのまきりの上まきり。此
 此のまきの動もまきり。まきり

〇七

正令 一甫 離用 子松 棠郊 雪也 休圃 栗笑 一之 素者 折美

とりしりし月を物まきり
 背戸の女もまきり。まきり
 柴のよのまきり。まきり。まきり
 子のまきのまきり。まきり。まきり
 此のまきのまきり。まきり。まきり
 此のまきのまきり。まきり。まきり
 此のまきのまきり。まきり。まきり
 此のまきのまきり。まきり。まきり
 此のまきのまきり。まきり。まきり
 此のまきのまきり。まきり。まきり
 此のまきのまきり。まきり。まきり
 此のまきのまきり。まきり。まきり
 此のまきのまきり。まきり。まきり
 此のまきのまきり。まきり。まきり

今 裁星 梅雪 二丘 雀堂 骨釜 確然 接海 孔正 掃毛 積翠

為りけり... 押さへて... 秋の為り... 粟糠子徳の... 出ぬけ... 好く温... 夕暮... 一木の... 約半の...

高... 大梅... 丁... 月... 多... 木... 嵐... 一...

花芒

草芥

小車

まん

焼... 吹... 一木の... 三... 一木の... 匠... 小車の...

一... 双... 庚... 新... 月... 守... 昨... 昨... 難... 雨...

秋

蓼花

暑き日や傍物自ら蓼の花
了は小町のよきとて蓼の花
夏中の辛き白ひや蓼の花
人住すぬ隣にもみそくもくも
植刈あつてよき踏もよき蓼の花
業仕切つて上律やよき蓼の花
魚籠つて通る植刈や蓼の花
まへり出たる蓼の海菜や蓼の花
是れよりのわし蓼の州の蓼
自利安き社よ入る蓼の花
字の蓼およき蓼の蓼

蓼花
赤白
一水
字水
泉湖
業務
文高
高上
甫月
正合
字高

草花

芥菜

菜花

水引
稻花

田の畔へ咲揺るる蓼の花
舟下まで先結しは蓼の花
後へうら蓼の廣くは州の花
蓼の花は蓼の花の如く
湯呑むる蓼の近し蓼の花
州の花は蓼の如く蓼の花
蓼の花の蓼の花の蓼の花
蓼の花の蓼の花の蓼の花
蓼の花の蓼の花の蓼の花
蓼の花の蓼の花の蓼の花
蓼の花の蓼の花の蓼の花

一南
稷損
庚年
仁三
凉谷
ぬ荳
量山
真及
行花
眉荳
一陽

水田

蓮実船

内よ其をく足るをく唐く稲のそ
日の入や稲のあえよ出るを
掌の上よりくくくくくくくく
札歩のそをく一群稲のそ
作爲のそをく一稲のそ
亦る年はくわぬ川や稲のそ
由例元の扇よのそく一稲のそ
蓮の實のそをく一稲のそ
ちよのそをく一稲のそ
める待るそも似るく種
葉を松の扇よのそをく一稲のそ

川
長
仙
了
一
丁
多
二
永
蓮

西瓜

早稻

蔓くく内よりぬあくく
年才の生叶や大 瓢
未生のまを瓢や葉の照
物縁を盡くく一瓢
一ひの低くくを種瓢
種あくく吹くけ而の年
照くく西瓜自傳の畑
は後け出くく勢をん
辻事の稲徒よ切るぬ
三月此光よあく西瓜
早稲のまよ出る葉を日

飛
友
正
亦
有
慈
一
粗
札
玄

あま豆 落し水

甲稿のまよかあききや人石
 ねを対やまの裏系わきの佐
 甲稿のまよや海垂てくも海月
 早稿のまよおあ金の般若
 若戸川や甲稿に離るまの若
 あま豆のほまきとる麻うね
 落し水も作れくしあや四の水
 雲の末のまやまきけく落し水
 猛突や海乳中まき落し水
 月星の影を落し水落し水
 落し水や落し水落し水落し水

五子
 子粒
 正令
 海子
 若菜
 布席
 雲也
 杉月
 暮雨
 杉井
 常陸

残 牧

荒海よ落し水也秋の田院うね
 旅くのろよ似たり落し水
 あま豆よ落し水よあまの音
 切落し山田のまや昇光新
 人も期る新し水や落し水
 二三交り切し落し水や山田あ
 まあ終るあや庭まがも落し水
 戸一童子落し水もあまの音
 病ぬ新水もあまの音あまの
 秋の稿のまよまき通

杉月
 雲翠
 陶烟
 多よ女
 一具
 英山
 巨産
 五風
 南山
 双二
 常陸

秋蝶

秋の夜の来を憶へ這入り
跡も夜の来をかくはと怪を水
のこぼれを噴き流るる秋の月朱
跡も夜の来を憶へ這入り
掃きと埃の下より 秋の蝶
浮蟻く中の夕日や 秋の蝶
来るとあく廣くともあく秋の蝶
言いつた来極の程は凡 秋の蝶
秋の蝶飛やんを飛伯 交
風舟のりり 交交や 秋の蝶
掌に這をさす 凡く 秋の蝶

雁登 暮雨 菊蕊 斗来 北賞 南山 友之 乙光 宗紀

秋 蝟 蝉

秋 螢

宵の月も 子に白く 秋の蝶
蜂の蜂の ありあき 身の色 古き
樹や 秋の 秋の ぬ子の 如雲鳥
樹や 雨を 雨を ぬ子の ぬ田舎
初子や 根は 根は 根は 根は
樹や 根の 根の 根の 根の上
樹や 雨の 雨の 雨の 雨の上
樹や 雨の 雨の 雨の 雨の上
樹や 雨の 雨の 雨の 雨の上
樹や 雨の 雨の 雨の 雨の上

子之 存寄 稻馬 其飛 里竹 雁登 苜谷 一甫 菊蕊 其摩

筆坡

蜻蛉

蝨

秋の暮札の上り、来りて是
種実く、右のまのり、蜻蛉が
夕照の光を、きつて、とんちん
蜻蛉の止る心、や、を、存、博、之
蜻蛉や、由、を、と、備、る、の、光
とんちん、ま、あ、り、と、毎、ま、を
蜻蛉の卵も、ま、り、や、三、上、山
とんちん、や、何、系、種、の、瘦、耕、地
蜻蛉や、に、新、出、来、く、人、通
振、五、ま、ま、く、度、ま、く、とんちん、あ、り、
夏、の、暮、の、光、を、き、つ、て、ま、を、き、つ、て、

虫 旭
眉 蕙
昭 眉
玉 葉
月 露
一 南
素 心
源 谷
庚 年
羽 人
文 光

出

字、難、ま、く、人、を、花、被、る、ま、り、
藤、葉、の、影、を、被、る、ま、り、
鼻、先、く、花、付、雪、の、み、を、う、れ
口、南、り、と、ま、を、ま、り、古、蜻、う、れ
懐、く、入、る、ま、り、ま、り、ま、り、
而、角、や、ま、り、の、上、り、種、札
虫、鳴、や、ま、り、に、附、く、料、理、の、音
蜻、下、跡、を、踏、つ、て、廻、る、ま、り、
一、ま、り、と、秋、を、動、く、ま、り、
秋、を、あ、ら、う、く、候、う、ま、り、
虫、の、暮、ま、り、ま、り、

小 圃
丁 寄
只 友
玄 子
字 鳥
波 之 寄
竹 子
雪 也
木 家
雁 美
栗 笑

此中此物之類之類之類
 新の如きもの種之類有
 此物之類之類之類之類
 此物之類之類之類之類
 此物之類之類之類之類
 此物之類之類之類之類
 此物之類之類之類之類
 此物之類之類之類之類
 此物之類之類之類之類
 此物之類之類之類之類
 此物之類之類之類之類

柳 園
 枝 夫
 殊 和
 若 者
 如 非
 了 了
 布 帶
 多 女
 盤 巢
 月 魄

此物之類之類之類之類
 此物之類之類之類之類

吳 妙
 柳 美
 古 川
 綿 州
 竹 殊
 琴 月
 葉 三
 有 女
 相 宜
 尚 古
 樹 雪

菘鳴

音のそののびに止し七乳者
虫鳴や草の上り夕昏
ふきく来や虫鳴秋の道
虫鳴や岸もよぬ海電候
火名も一初向や虫の色
菘の虫般の秋は房り
菘虫を虫とて向ふ仙方式
その虫や何處てもさる色遠
鈴虫よあふた葉の傳候
さる虫や竹葉建と名燃就
いふとも信事と名と葉を虫

木架 草虫 一南 文鴨 菘菘 雁臺 笑語 久臧

鈴虫

茶立虫

竈馬

蝟螂

罍出鷹

鳴子

秋の感ふ防さる道葉を虫
新葉の産を花出ん
一寸身も物まひり身素
身素はは核立凡の柄根式
きうぬ気の情候も皆秋の古
樹鷹の林をたぐ秋の月産
族根を仕あも成鳴る
松茸の葉も葉もや鳴る引
そるの引さる烟の鳴子
鳴子引さる出さる葉子
柿の葉も一つの葉の鳴子

相系 玄子 二丘 古翠 鼎湖 尺弟 尤素 古翠 文麻 琴浦 惟子

鳴芋
引板

引切や酒樽傳る鳴る
鳴る鳴る鳴る鳴る
小田山田為る鳴る鳴る
橋る肉をか傳る鳴る
あつらひ鳴る鳴る鳴る
高仙も鳴る鳴る鳴る
川子伝る鳴る鳴る鳴る
淋しけり傳る鳴る鳴る
里くの鳴る鳴る鳴る
鳴る鳴る鳴る鳴る鳴る
引板鳴る鳴る鳴る

龜得
南々
南々
南々
南々
南々
南々
南々
南々
南々

葉山子

葉山子より伝る鳴る
葉山子より伝る鳴る
葉山子より伝る鳴る
葉山子より伝る鳴る
葉山子より伝る鳴る
葉山子より伝る鳴る
葉山子より伝る鳴る
葉山子より伝る鳴る
葉山子より伝る鳴る
葉山子より伝る鳴る

龜得
南々
南々
南々
南々
南々
南々
南々
南々
南々

類題十萬句集初編秋之部上終

類題十萬句集初編秋之部中

洞海舎涼谷編

一具菴二具校合

八月朔

八月や木を伐て居よりの山

八月や産屋をくさる候の籠

八月や縁場へ足踏定む花柳

八月や田舎の老よりとて候る

八月や扇をふる日乳白く

八月や声去りたる橋の伎

八月の月を名を特四面うけ

八月は風を名を特四面うけ

巨産

如仙

二

永界

露家

陶烟

棠乎

雨芽

秋

田面の日
仲秋
長夜

ハ秋やきふ桂々の峰の秋
ハ秋や尾毛ふくむ日白の籠
ハ秋の由陽あたる生雲が
由雲くも廻る稲穂や田面の日
仲秋や雲のそとく一志あり
その秋の降る雨くはんせ侍
雅く候てくく秋の長きこの秋
湯治先の窓く候く秋長
その秋を落やまぬ所付来
長き秋や覚るく雲の音あき
永き秋の明を林ま祝く秋

下松

素女
丁部
多女
古翠
青龍
雲龍
存堂
左聖
文鬼
文甫
丈二

秋寒

朝寒

粘強ふをんし娘の長秋の
波の秋も長秋の意を明
秋をくく何するや青松先
秋をの山松ふくく日秋武
秋をくく尾のふくく山の雲
崖屋のくくく白ひ子妹を
相の木の風を雨くより秋を
秋をくく目の見際のみを
秋をくくやけくくくく何
秋をくくやれくくく手習子
秋をくくくく秋の美人が

二個
葵る
棠却
文光
甫山
楮
薪水
楽有
多女
竹了
山権

秋

於名や児の手梅子梅の籠
 於名や五郎の者の身は衣
 於名や合うく巻る鞍射米
 於名や侍子のけや庭の草
 於名や棒突の懐き美唄
 於名や柄の先乳七七松
 於名や生肩の雲を袖津く
 於名や茶店終る子口
 於名や禪心く角力取
 於名や兄借を居やるの上
 於名やの重るぬり光り於

甫石
 毎才
 友之
 陶烟
 字不
 多景
 然菜
 芳谷
 字香
 万里
 喜雲

夜寒

於名やの娘も居別字於名や
 於名やの森交空ぬ於名や
 於名やの切きり何る於名や
 於名やの光る於名や
 於名やの神座を解る於名や
 於名やの縁をこ希ん於名や
 於名やの夜寒を
 於名やの時宜く果ぬ於名や
 於名やの加茂川をこ於名や
 於名やの風味を
 於名やの二ツ梅子も於名や

作
 整備
 薪水
 芦帆
 今
 素
 道
 素
 文
 掃

くち寒

長橋の松を伝へぬ鷹子鞋
若菜の存を定むる松を六
山素く解雲の風は松を舞
難松を少くもあはれ松を七
海柳子葉を移す松を八
古くちくちく松を町松を九
波よけの松松を十松を十一
松を十二松を十三松を十四
山の白松を十五松を十六
森を十七松を十八松を十九
くち寒くち寒く松を二十

陶烟
不沈
松鳩
多よ女
一具
布那
強平
芦月
石舟
月岬
不曲

野分

金替子の松を伝へぬ鷹子鞋
懐く雨の松を定むる松を六
うんうんと松を町の松を七
松を八松を九松を十松を十一
松を十二松を十三松を十四
松を十五松を十六松を十七
松を十八松を十九松を二十

梅周
右機
多よ女
青鳥
岐之舌
稲島
雨あ女
友之
木公
雨直
雪是

秋夜
秋雨

中宵の生る静さく寝るうね
難心や寝るまゝ秋の一ちり
殊の秋や自然と假ま秋声
二三重やんちりて殊の色
秋の白くの油灯を懐かたり
秋の心く寝るもつらけ秋の色
秋の白年秋夜窓の境垣
秋の心く寝るもつらけ秋の色
酒花の初燈くも秋の色
あふ木を寝るもつらけ秋の色
菊棚の一人寝るもつらけ秋の色

菊瓶
愚本
一具
字井
壺半
不戒
踏染
斗逆
竹了
里什
多毒

初汐

秋月

月の尾を借んてきくや秋の菊
葦吹くやりもこいふや秋の色
而川の言る市おとて殊の色
草鞋のとまうしききし秋の色
種あつくはれを淋し殊の色
赤山のさうさうとるて秋の色
初汐よ寝るもつらけ秋の色
そつ汐や佳響たつる砂の上
初志布の手尚きく並出おむ
何気なく寝るもつらけ秋の色
世の中を忘る寝る秋の色

出羽
荷了
葦水
載星
木司
木正
露露
月公
今鳥
万里
春及
三丁

三日月

有負之六面なき物を移のこ
 十六夜の以てよの光及移の月
 万情よ五連移てく妹の月
 三日月や伴を望んで来由は
 三日月子孫を向てる田舎お
 橋ノ路や信舟を夢て三日月
 夜を望む家園南や二るれ
 待宵や子孫新の風情はく
 まつ宵の人戀ては田舎お
 待宵や望むも五右衛門は
 待宵や戸を操るもあはれ

蕉丘 風石 右橋 文鬼 眉蕉 雅甫 石上 意色 床和 橋海

待宵

小墜月 月見

待宵や木橋光るる夕暮植
 待宵を望むも稚の情を
 為る急く竹の系新や小墜月
 是橋の月も月見花笑ひ色
 夜ぬきよ子孫も望む月見
 君も去るぬ密を呼んで見
 本号を望むも望む月見
 月見とて在るも望む月見
 橋手より隣の近更も見
 何よりと人の何れも月見
 吾も去るも望む月見一人

多女 古翠 青飛 子粒 謝堂 松月 一家 山笑 芽谷 素五 双足

月天の松うゝ多る月見哉
舟の住子侍りし船の月見哉
舟の仕交ふそ松を舟に
舟の舟うゝ月見ぬあつ舟に
舟の出る人をも舟に月見ぬ
舟の舟の舟に舟に月見ぬ
舟の舟の舟に舟に月見ぬ
舟の舟の舟に舟に月見ぬ
舟の舟の舟に舟に月見ぬ

舟山
舟山
舟山
舟山
舟山
舟山
舟山
舟山
舟山
舟山

名月

名月や物さひさうな松舟
名月や物さひさうな松舟
名月や物さひさうな松舟
名月や物さひさうな松舟
名月や物さひさうな松舟
名月や物さひさうな松舟
名月や物さひさうな松舟
名月や物さひさうな松舟
名月や物さひさうな松舟
名月や物さひさうな松舟

貞雄
多山
松舟
竹宮
双二
兼海
荷子
舟凡
夕山
吟霞
梅溪

ありや短冊はくし菴の丹
 ありや少のるるあつ日の入ぬ
 ありや楫を杖よ一森入
 ありや木のこま雀のあつる
 ありや海人の底も葉始芽
 ありや何木も兒をも杉りしよ
 ありやちも四巻も軒並ひ
 ありや盗を辛ま唐うらう
 ありや魚の上孔と海毛針
 ありや此ありをも藤も毛毫
 ありや乳足赤しと何く丘の家

五堂
 道雄
 月家
 文廣
 梅雪
 蓼文
 床有
 巨壺
 梅因
 赤莢
 赤右

ありやもろくや小舟の内人数
 ありや滝乳と海毛針の先
 ありや松もも葺の布しと葉
 ありや小舟のちももはの敷
 ありや以つもあつる松の乳
 ありや松を自高よ小舟備
 ありや地代の備し葉畑
 ありや香のききや乳雀店
 ありや葎よ一松右とん
 ありやのりはもとの桂山うら

赤付
 羽人
 雲翠
 暮雨
 鳥山
 如蓬
 惟字
 龍化
 篠山
 翠雪

ありやはの上まはのち
ありよ里の松の枝く柳
ありや人の水もあまを
ありやをまきの首の
ありや豆腐のわいし作物
ありや松のまき木の松
ありや一里出ても尾の
ありや松の傍の山の
ありや松のまきの柳の
ありや松の風向の柳の
ありや松のまきの柳の

十之
久減
了
一具
葉
布席
青
多
松

今日月

ありや松のまきの七曲り
ありや松のまきの松の
ありや松のまきの松の
ありや松のまきの松の
ありや松のまきの松の
ありや松のまきの松の
ありや松のまきの松の
ありや松のまきの松の
ありや松のまきの松の
ありや松のまきの松の

一陽
謝堂
子松
浦古
女和
田葉
笑

終倒く初巻きうと字の月
糸掃く松よ巻きやけのこ
秋立も任る任や巻の月
病々や元八尚白も移りあつと
よの巻子孫院のあやうけの月
多良良巻の白ひ目遠く巻の月
きりきりてを中一と巻りあつと
牛窓の川を越り巻の月
川原や栗志巻てけのこ
人嫌ひさぬ巻の巻の月
依るよ巻の巻くや巻の月

松秀
不尻
古軍
多妻
守侶
干了
鼎湖
巻紀
涼谷
全全

今日良

月今宵

長き秋のみも長き月今宵
初くとと巻の巻何月今宵
秋巻く月今宵と巻の巻
月今宵巻出ん巻今宵
任る月今宵のハ巻巻
巻巻巻巻巻巻巻巻巻巻
十五巻の月今宵一巻巻今宵
十六巻の巻巻巻巻巻巻巻巻
巻巻巻巻巻巻巻巻巻巻
十七巻の巻巻巻巻巻巻巻巻
巻巻巻巻巻巻巻巻巻巻
巻巻巻巻巻巻巻巻巻巻

雅柳
名和
回華
更川
布席
又山
采徑
一甫
子轉
巻星
巻出

十五夜
十六夜

月

そや夕月の通るを十六夜
十六夜も月一宵あやむの者
早のそよよよよ月のそよよ
物々々小窓の月や家々々し
籬うけの物を掲ぐる月夜が
はあくの人の家々の月夜うね
世のそよもそよと一人月夜うね
月夜之夢盗人も物々々
縁あけの傍る月の月夜が
おそましく月の細き月夜が
ふりくく月も雲々月夜

古翠
一 貝
二 夜
古 陸
水
型 浦
泊 夫
芦 帆
去 子
民 城
植 海

〇 辛

秋

照年く月々々々人々々々
松の上よ白波々々月夜が
蟹のくも蟹手々月々々
流の依崎々々月々々
豫意を病て月々々
畑と蟹の来々々月夜が
松栞を月の産と来々々
日の内よ月の出て月夜が
名実のあよ家々々月夜
産の月夜が々々々盗ま々々
月の夜や満る月々々々

二 丘
去 々
赤 薔
巻 水
耕 妻
更 川
李 蘭
松 舎
貞 権
松 桑
篠 山

二枚と初曇とく月の一枚か
押さぬとくと言ふ月の声月
月の所や月の曇とく一変
弱とくく月をくく動く
くぬふの聲とくも月をく
夜更や月をくく月の初曇し
久之月の月く月の光く
く何れ月く月の山をく
葉未とくく月の山をく
面のや月く月の山をく

唯損 大梅 大費 今湖 一具 然菜 布席 市元 喜飛

豆の売得山持より月初曇
未ぬ初く一延もく月の初曇
稲穂をぬくも月の初曇
能く初曇く月の初曇
月の初曇く月の初曇
月の初曇く月の初曇
月の初曇く月の初曇
月の初曇く月の初曇
月の初曇く月の初曇
月の初曇く月の初曇

夕花 羽白 菜瓶 妹登 右拳 命 南く 吳洋 南月 字井 桂菜

月雲

更さりの夕陽や月のを
 古看よ一翳りのやうのそ
 強つる雲霞のまゝや月のを
 盃のよまぬ中や月のを
 月の面何をも手忘あまつさへん
 月の白果鞍片を交枝を空
 人毎子方りの日何う好生會
 為る衣よ風我をたぐるや放生會
 礼枝よ来々や松少や好生會
 雲くくもや何若や好生會
 五人又まき飯や 弱あふ

霜 凌 雨 岬 堂 瓶 粟 菜 芋 薯 菜 露

月雨

放生會

放鳥

駒迎

尾花

憐れの菴はとあつた 駒 連
 比乃梅よまきまの毛雪尾あふ
 此日の日和は雲あ男筆式
 来る善託と人々をねをまふ
 月の出るさへ振向尾花を
 橋の形を一可哉とねをはあふ
 風止む後とる尾あゆ夕うけ
 雲此鳴りのあつたや初男を
 牛借とる産をさ出ぬけ産あふ
 杖とる産杖とるさるあふ
 懸谷く杖とる産杖とる男あふ

出符

思 子 二 五 一 松 字 不 可 如 万
 文 裕 丘 岬 花 石 材 傳 仙 里

紫苑

寸角のほね屋の戸口を
 あと着の河よりよき紫苑紫苑
 するまを折跡はせし志を
 以てわしに風折しし紫苑
 伸る程枝を離ぬ紫苑
 恒にや空を名垂る紫苑
 朝名ら風の影をん志を
 酒好のほ住居る紫苑
 夕方の日影の折れ紫苑
 紫苑まもりや小山の修り
 中や人の折れまもる志

陸奥 倭侍
 南 雀
 木水 羽人
 六 羽人
 万 羽人
 不 羽人
 布 羽人
 芦 帆

五林

雞頭

木平

以折る旭の志を紫苑
 程まもる志を紫苑
 咲初し日を志を紫苑
 家も枝実を志を紫苑
 志を紫苑の光を紫苑
 程まもる志を紫苑
 程まもる志を紫苑
 程まもる志を紫苑
 程まもる志を紫苑
 程まもる志を紫苑

芦 実
 尤 来
 文 鵬
 松 和
 羽 人
 尤 来
 雨 芽
 陶 桐
 一 具
 集 考
 桂 葉

木犀

蝶頭

鶴の爪や宿和まらん 揚子口
 雅の枝の撞ら布し 籠の折宮
 雅の枝や蒼と以て月一
 障子の雅の折宮 後架道
 山伏の借の折宮 雅の折宮
 敷の折宮 雅の折宮 入の折宮
 雅の折宮 雅の折宮 非人小庵
 木犀の折宮 折宮 折宮
 木犀の折宮 折宮 折宮
 木犀の折宮 折宮 折宮
 木犀の折宮 折宮 折宮
 木犀の折宮 折宮 折宮

一甫
 素心
 素心
 素心
 素心
 素心
 素心
 素心
 素心
 素心
 素心

蕎麥花

六

日初とよけむら 蕎麥花
 了後を去りて 折宮 折宮
 蕎麥花や月を 折宮 折宮
 蕎麥花の折宮 折宮 折宮

雄飛
 夕山
 阿号
 阿号
 阿号
 阿号
 阿号
 阿号
 阿号
 阿号
 阿号

花野

秋

大蓼 穂蓼

何處やま子時しの形有る花枝は
風強く小松ありくは花枝は
羽の愛えくは花枝は
五六代花枝をありは花枝は
松一本花枝は
花枝の織をくは花枝は
山あり一里ありは花枝は
是花枝の花枝を一人通るは
菓子昆布の味ありは花枝は
大蓼の花枝をくは花枝は
花枝の花枝をくは花枝は

正令 夕山 雨画 文和 花甲 惟州 志省 布席 全 陶 機

川萱 穂

くは花枝のたけをくは花枝は
花枝のたけをくは花枝は
花枝のたけをくは花枝は

高機 高妻 山

苧 芦

月一穂は子伸ぬ苧は
多付くは山路はまは花枝は
花枝のたけをくは花枝は
花枝のたけをくは花枝は

萩水 榎海 栲 因

木通

花枝のたけをくは花枝は
花枝のたけをくは花枝は
花枝のたけをくは花枝は

栲 因 點 菓

鬼灯

鬼灯を花枝をくは花枝は
鬼灯を花枝をくは花枝は
鬼灯を花枝をくは花枝は
鬼灯を花枝をくは花枝は
鬼灯を花枝をくは花枝は

多よ女 友之 高

唐辛子

鬼灯と云ふは種も唾
ありは其や夕日し
菟藟と云ふは種も
唐辛子と云ふは種も
唐辛子と云ふは種も
唐辛子と云ふは種も
唐辛子と云ふは種も
唐辛子と云ふは種も
唐辛子と云ふは種も
唐辛子と云ふは種も

古
古
古
古
古
古
古
古
古
古

懸 稻

稻

稻 川

唐辛子の種も唾
唐辛子の種も唾
唐辛子の種も唾
唐辛子の種も唾
唐辛子の種も唾
唐辛子の種も唾
唐辛子の種も唾
唐辛子の種も唾
唐辛子の種も唾
唐辛子の種も唾

唐
唐
唐
唐
唐
唐
唐
唐
唐
唐

秋

中 晚 稻

稻 舟

綿 稻 穗 取

稻付し 後の月夜や春の月
 稲をよや 殿の月夜の月
 二の九子二畝程何ぞ 中稲
 晩中 月夜の浦初 晩稲
 暮るるもよのよのよ 晩稲
 稲舟や 舟のよのよ 晩稲
 稲舟の 舟のよのよ 晩稲
 三のよのよ 稲舟の 舟のよ
 舟のよのよ 稲舟の 舟のよ
 一の稲舟 舟のよのよ 晩稲
 舟のよのよ 稲舟の 舟のよ

永野 松五 大費 難因 難院 有 宇桂 不流 大梅 羽人 芳菴

大豆 粟

芋 黍

菘

大豆 粟 芋 黍 菘
 大豆 粟 芋 黍 菘
 粟 芋 黍 菘
 芋 黍 菘
 黍 菘
 菘

雄嶺 吟霞 生阿美 庚年 桂海 小圃 鼎湖 今 子 菘

辛子蔕
茸狩

移を良研 多き子 秋を任を
月よりとくをい 烟管や辛子蔕
茸狩や 世をさつと先をいけ
茸の多の 味半しとく 二日月
茸より女 後身の暮く 元と廻る
多け狩り 怪し 附く 木のそと
茸狩や 母の 出はるし 権 方
茸狩の 四半人 穢る 後し 葎
多け 狩りや 向まをさる 骨の何
茸狩や 怪し 浮出ん 風の舟
茸の多や 母と 枯る 秋の果

布席 多し女
宮坂 眉意
芦帆 全
右 琴
一 甫
多し女
一 具
吟 鹿

菌

ト治
松露

管絃より 吟く 音より 菌うを
多し 来りて 秋より 多し 菌は
女 白元の 多あく 多や 難本の子
朽る 多し 鳥も 多し ぬ 菌う 形
家つとく 多し 觸る 初ト治
お面の 多し 松露より 松露より
小枝より 觸れし 多し 松露より
多し 多し や 松露より 多し 多し 多し
松露の 多し 多し 多し 多し 多し
松露や 多し 多し 多し 多し 多し
多し 多し 多し 多し 多し

宗 能
芦 色
氏 味
水 水
三 枕
木 曲
生 菱
布 席
尺 山
琴 雨
古 陸

蟋蟀
松茸

崎しん光を移すのきり
夜任の此も紀さるやきり
初りしん已うきりを月の中
菴の美しう古ひてきり
多波も在ぬまきりや初りしん
整く赤債をとくは懐懐
森海まゝ小室や月と初りしん
きりしん二日新月のはきり
能くは共の桶の中や懐懐
ゆけは赤く樹の四隅の初りしん
重くの油も腐りてきりしん

崇 山
夕 山
應 雨
芝 菜
涼 荷
水 氷
梅 園
乙 老
多 上 女
今
斗 玉

蚯 蚓
渡 鳥

小房の縁を流る女きり
ひる夜や初を移すは懐懐
初りしん七方掃き初りしん
膏う乳交もまきりしん
獲 巡り足乾ん氣ありしん
ゆつと初と移すも必今懐懐
膏月々初るま物之懐懐
初りしん乳交し初る小きり
黄分を初るまはま初りしん
初りしん赤初るま初りしん
初りしん赤初るま初りしん

貝 谷
斗 逆
禾 木
相 雨
鼎 炊
雲 翠
暮 及
山 雄
政 善 女
稻 舂
未 莖

燕行

一帯を空に見去るや海にあり
山風よよははま吹くや海にあり
梨よよ三笠山よよわらうる
かき鳴く声もよよ海にあり
海にありぬの海にありの海にあり
海にありぬの海にありの海にあり
海にありぬの海にありの海にあり
海にありぬの海にありの海にあり
海にありぬの海にありの海にあり
海にありぬの海にありの海にあり

震翠 暮雨 永界 棠平 如蓬 蜀錦 布席 大貴 字并 二洞

雁

秋をゆくね軒は櫛の這を
任官人若くうらまよく燕
秋をゆくね軒は櫛の這を
任官人若くうらまよく燕
秋をゆくね軒は櫛の這を
任官人若くうらまよく燕
秋をゆくね軒は櫛の這を
任官人若くうらまよく燕
秋をゆくね軒は櫛の這を
任官人若くうらまよく燕
秋をゆくね軒は櫛の這を
任官人若くうらまよく燕

震翠 暮雨 永界 棠平 如蓬 蜀錦 布席 大貴 字并 二洞

乃所や山ありのつる丸の中
 奈々々々 柱をたせし乃のそと
 一初より甥よ従才よと健
 乃ありやと洗滌の粉をな
 乃の所よりよとく入江の
 雨をのち健ををなや海の
 以つるあや怒し指くち後
 乃ありや海よ一人木海素
 来りよと以つ乃ありや小田の
 若のそより若は雨ね乃の声
 一乃り 指く月や後

右 琴
 全 涼
 全 相宜
 今 菅星
 蕨之
 田 毒
 乙 老
 雨 行

乃子影のほくしわく
 乃近く城より畏れし若の乃
 乃所を伝ふる陣をなつ
 乃下より後よと乃の月を
 乃所よとく物や乃の特
 乃の山を自當乃の為る
 乃様や海を以まや若乃
 乃の乃のうらな風や後乃
 乃の乃の志を乃の乃の
 乃の乃の乃の乃の乃の
 乃の乃の乃の乃の乃の

松 舎
 不 曲
 永 馬
 鹿 林
 松 雲
 量 山
 右 翠
 壺 半
 易 足
 松 井
 雅 因

鵲

初月や六の星し香る松の空
下鳴や下秋を起す空の海
追ふこと初月よありあらず
橋あつた林しとあきやての空
下集空をいれぬ雲上川
世造作舟の松喰や下の声
初月やあきやの夜を川に
わつた空を下まゝする外田
鵲鳴や下秋を起す空の海
下秋を起す空の海
初月やあきやの夜を川に

多子
全
一葉静
桂秀
月岨
全
涼谷
多子
蒼子
伯夫

五六橋極五空又鵲の声
下鳴や下秋を起す空の海
追ふこと初月よありあらず
橋あつた林しとあきやての空
下集空をいれぬ雲上川
世造作舟の松喰や下の声
初月やあきやの夜を川に
わつた空を下まゝする外田
鵲鳴や下秋を起す空の海
下秋を起す空の海
初月やあきやの夜を川に

名体

多子
全
一南
友之
桂子
稻海
楽水
大貴
史子
伯夫

鳴

赤白乳板あまえて鳩の舌
 玉六房鳴くら先々の所り哉
 鳴の傳くまら海の所る出お式
 後くまのうらや鳴の声
 山くまを鳴より傳く傳てま
 鳴の傳りや舟の所りの字ま
 多ま傳をまやれ鳴の傳ま
 鳴くまら二松伯の赤ま
 有旅ま字まらまを鳴の色
 鳴まらまら星まら田
 鳴の傳の鳥ま傳りや長松

休圃 文光 巨壺 花甲 史子 山友 古川 意雨 相宜 素大

啄木鳥 鶉

昔の林をくまら鳴りや鳴の
 於まや啄木鳥鳴りて理札
 孫月の圍炉まらんや鳴鶉
 原中の田まら入よりまら鶉
 鶉鳴りまら控町の畑
 近くと鶉鳴りまらまら尾
 鶉をまらまら角遠まら鶉
 鶉の市の人まら通まら鶉
 月夜まらまらまら鶉
 乃連まらまらまら鶉
 押まらまらまら鶉

素大 梅香 文佛 芳谷 湖平 玉葉 翠井 全 多子 茶瓶 出水

小雀
椋鳥
鵲
鳩
鳩吹

後東よ嚏もはるらん
男氣よ何や新殿の丘へ傳
鳴りよを盡まね鳥の鶴
以て多あき恒牛起を
其のよも借をも新殿の鶴
傳り来り日よ小雀六里の鳥
椋鳥や四つに
鵲の尾の柳を
鳩吹や山を離るる
鳩吹も休と

永景 篠山 泉 全 夕山 一甫 芦月 篠山 雁空 葉花

稻雀
麋

連枝をきく花也や稻雀
日のやうに傳りつる
狗柿の乾く由ひや
さるる月の影や
さるるあま歩夢
麋傳りてけ
新のよを
新のよを
新のよを
新のよを

美女 相雨 不曲 蕉丘 踏穿 素花 風毛 夕山 相系 栗笑 味洋

師のくまきる釜や日ほるの色
 鳴るよまをうも鳴や里の大
 るを待の止く麻のゆわく
 松のをれはるあひさう麻の夜
 々々をいぬよ菴や志の考
 初よりくと新川をし麻の恥
 志の考や知らう麻も岸の利
 麻鳴や新く老く春日山
 月又入山へ考何う一ツ流
 流の考の好く短く麻の声
 向く来たの麻の林へ志の考

札月
 裁星
 全
 石龍
 志子
 二丘
 相宜
 蜀海
 文廣
 文和

志の考り志の電をそあ待り
 麻の考り川を新あて考考し
 麻考りの流よ入や曉の流
 麻よ持はる考よまを上か
 山まを仙井や麻の丁志
 照る月も考りや志の考考り
 志考りよまをのて麻也麻二ツ
 流考りよ信て麻考り考考の謎
 曉や暮るく流の考考考
 米搗も耳を麻考り月のを
 麻考りや考考の考も流考り

陸奥

元分
 一也
 考考
 南山
 永水
 学井
 志本
 豊山
 古塚
 乙貞

小男煮のん居んあう大川の智
来買して空居りて子麻の色
膏の煮の居りてゆへおれおれ
煮の煮りゆさうの新のふもゆ
ゆ麻の上も来ぬ麻の煮
ゆゆけと麻作向や煮の煮
煮のゆあま煮るやおれのゆ
麻を長く煮れぬより糖を煮
ゆを煮る麻の物らあ月夜に
北の海や町人住て煮の煮
津の煮と煮も煮ん麻の色

多よ女
全
日人
糸新
存麻
桂皮
実宝
全
原谷
二了
三柳

落 鮎
淡 鮎
沙 魚
彼 岸

麻の煮や煮る麻の色も煮る
ゆゆ煮の魚も煮るゆゆ
煮の煮る煮る物も煮る
月夜を煮る煮ると煮る声
麻の中煮る煮る煮る
陸持のゆも煮る煮る色
煮る煮る煮る煮る煮る
煮る煮る煮る煮る煮る
煮る煮る煮る煮る煮る
煮る煮る煮る煮る煮る
煮る煮る煮る煮る煮る

水
節
全
回兼
全
幻芝
鳳毛
素女
訖化
才圃
素者

砧
水
水
水
水

砧山の雪を動くは小杉松
石を動かすは石を動かす
石を動かすは石を動かす
石を動かすは石を動かす
石を動かすは石を動かす
石を動かすは石を動かす
石を動かすは石を動かす
石を動かすは石を動かす
石を動かすは石を動かす
石を動かすは石を動かす

里自
古陵
眉蕉
東止
五堂
左琴
道雅
相宜
月翁
名木

止るとも亦よすえんあはれ
おとよの保まの更り砧
おとよの上掃くは出れ砧
おとよの心算を足す砧
おとよの兄おぼしは砧
おとよの兄おぼしは砧
おとよの兄おぼしは砧
おとよの兄おぼしは砧
おとよの兄おぼしは砧
おとよの兄おぼしは砧

名依

一本
菅笠
一越
羽人
古翠
喬竹
棟々
万里
雨芽
浦水
古翠

乳のまゝ乳用く由む小粒粒
小粒粒田よ山阿る委う
里弱ハ粒もよら委粒ねふ
粒打くん木の葉の里ハ乳粒
一身も粒よる乳粒二好
粒より梅の君んや小粒粒
黄葉の出る山く粒く粒或
小粒粒歩る乳粒く
小粒粒了の暗るの常元る
手はく粒くよ委う小粒粒
ふれ否不粒のきや粒粒

瓶乙
不村
日人
鼎湖
一橋
左橋
原谷
荷了
一香

衣擣

其葉を衣打や小擣を申は
衣打や洗や粒とけ易お

鼎湖
謝堂

類題十萬句集初編秋之部中終

秋

類題十萬合集初編秋之部下

洞海舎涼谷編

一具菴一具校合

九月

博石の山よりくる九月式

北眉

博石の山よりくる九月式

雄嶺

博石の山よりくる九月式

友之

博石の山よりくる九月式

休登

博石の山よりくる九月式

小圃

博石の山よりくる九月式

涼谷

長月
後籬

博石の山よりくる九月式

後籬

博石の山よりくる九月式

石

外市
后月

田や畑の物産をうし并多
 早もたふ田畑の上や后のそ
 早千手唐草一 後の月
 芋の根の何れしは後のも
 今止し一命を掃や後の月
 一工未務し住居やのそ
 ありては山崎中たり後の月
 新糸の先(土)や後の月
 市の海崎ひたり後の月
 廣大お古和畑や後の月
 雨の晴の直とを跡を後の月

一具
 多の女
 恩毛
 山権
 社賞
 何年
 菊く
 峰洋
 葉月
 友之
 大聖

八月

荒波の何れしををえん右の月
 芋のそ花折其の比也右のそ
 ありて向ふそ芋の後のそ
 とのそありて宵の露やう後の月
 昔務の跡ありて右の月
 日ありともよ心回の上や後のそ
 見ると人々減くそ六あし後のそ
 何ともやぬ身の困難や右の月
 祢置持くぬ理山の林や後のそ
 芋の戸や昔妻務もそ左のそ
 赤糸も信をそ近く後の月

笠波

吟霞
 尚古
 青峰
 一陽
 一南
 素心
 葛松
 貞雄
 不曲
 有る
 雲葉

粉葉を妻の世活やく後の月
儂のまきくをりや後のと
右の月家内を客の炭もあ
面をくや客より出さる後の月
夏向の月を偏り右の月
飛毬鳴子古物店の後の月
元達の羽織て出さる後のと
何気なく仕立てる後の月
後の月お更物なる醜く恥
柿のそや息も有りと右のと
浦島太郎の後の月

越雪 田島 多喜 大梅 岸花 志省 芋庄 丁吉 一具 小圃

出羽

十三夜

秋

後の月お更物なる醜く恥
葉の上は雀の封さる月元武
鼻うせと足もく新や右のと
妙よ丹の指何く後の月
後の月居老をせぬ交もよみ
右のと海の通か後路島
株を客の大蓮池や後のと
為婦を極よ交く右の月
後の月あつた客よりあられ重
親のゆふくを交もあ右のと
後考のゆふく交もあ十三夜

然葉 癒く 布席 今 運流 弥裁 涼谷 水 古翠 幻芝 竹里

秋水

秋霜

秋空

秋の夕日空を照らす水
 秋の夕日や小魚を泳がし水
 秋の夕日や大橋を渡り橋より人
 物もも秋を待たずや秋の夕
 借るもも秋の夕を待たず水
 夕より先も後も河を流す水
 四年夏の夕も秋や秋の夕
 市井の夕燈の夕や秋の夕
 夕の夕も夕の夕も夕の夕
 夕の夕も夕の夕も夕の夕
 夕の夕も夕の夕も夕の夕
 夕の夕も夕の夕も夕の夕

第拾

秋空
 斗五
 文海
 学井
 雁嶺
 三丁
 一市
 大宮
 水
 水
 水

菊

菊の夕日空を照らす水
 菊の夕日や小魚を泳がし水
 菊の夕日や大橋を渡り橋より人
 物もも菊を待たずや菊の夕
 借るもも菊の夕を待たず水
 夕より先も後も河を流す水
 四年夏の夕も菊や菊の夕
 市井の夕燈の夕や菊の夕
 夕の夕も夕の夕も夕の夕
 夕の夕も夕の夕も夕の夕
 夕の夕も夕の夕も夕の夕
 夕の夕も夕の夕も夕の夕

菊
 斗五
 文海
 学井
 雁嶺
 三丁
 一市
 大宮
 水
 水
 水
 水
 水
 水
 水
 水

志仙と葉二つ味のりまうね
 庵つゝひのあまた徳之葉のま
 羽織きして又元赤んや葉のま
 休もあき葉研の香や葉のま
 手紙をく辞後まの老や葉のま
 照葉よ葉布しを産た
 米芽あ身まら者を葉のま
 下戸達の靴まのゆるや葉のま
 一おま修る日わやまのま
 折燈よ日のらんあや葉の花
 志の向あ葉のまのま

多よ女
 栗笑
 全
 一之
 全
 夕山
 素白
 素白
 舟下
 應向
 芝葉

志身して葉見し廻るゆちね
 志の志を二交少ま葉のま
 葉のまあ家のまは白ひ式
 博のままま交や葉のま
 森をままままま葉のま
 世の中の葉をままま
 飯時ままままま葉のま
 年家のまままま葉のま
 山里まままま葉のま
 稻乳のまままま葉のま
 着るまままま葉のま

稲あ
 石上
 唐平
 芦月
 全
 友之
 左之
 全
 木公
 女
 序書

葉の香自ひ美し 葉香村
 秋夜を子姁定るや 葉の香
 有引り葉内ささや 葉の花
 葉も白も秋の何れささやの味
 世の味もささや何れや 葉の香
 葉の香よきく此 葉の香くは
 陽ささや 葉の香くは 葉の香
 秋の香くは 葉の香くは 葉の香
 葉の香くは 葉の香くは 葉の香
 葉の香くは 葉の香くは 葉の香
 葉の香くは 葉の香くは 葉の香

相直
 正令
 一掃
 名村
 一陽
 一南
 雲く
 雲浦
 葉出
 秋香

葉の香自ひ美し 葉香村
 秋夜を子姁定るや 葉の香
 有引り葉内ささや 葉の花
 葉も白も秋の何れささやの味
 世の味もささや何れや 葉の香
 葉の香よきく此 葉の香くは
 陽ささや 葉の香くは 葉の香
 秋の香くは 葉の香くは 葉の香
 葉の香くは 葉の香くは 葉の香
 葉の香くは 葉の香くは 葉の香
 葉の香くは 葉の香くは 葉の香

新之
 松海
 葉夫
 掃也
 雲采
 全
 字井
 文光
 古家
 全
 文鬼

小利子物もよ葉の住来
赤葉子常るるやわらわら
去る葉の生るるをり
一人はせりて出るや葉の
例よりよよ葉世世に
兄る程の葉もよる也
健るぬ程の葉もよる也
世こりる月の友もよる也
葉もよるや秋の名の
縁の葉もよる也
穂もよる也

玉和久
二和
有水
山
花甲
惟学
古学

葉作るもよる
まろくもよる
只の葉もよる
つる葉もよる
葉のよるもよる
葉のよるもよる
葉のよるもよる
葉のよるもよる
葉のよるもよる
葉のよるもよる

田
葉
今
古
久
大
庚
秋
葉

味よりきつりてきつりて葉と葉
 傍りてしよふまは出たり葉の毛
 葉細の中の通りや葉の毛
 其修りしとを葉の白くは
 十人よむくし葉のきく兒が
 持まの重る物や葉の毛
 葉修りしとを葉の白くは
 かなんかも隠れしとを葉の毛
 大根をわけるはとやち子の葉
 積りしとを葉の毛や葉の毛
 此の料地はとくしきくは

馬油
 一棧
 相向
 布席
 桂皮
 大費
 原谷

橋上の餅屋
 よくよき葉の毛よ葉の毛
 香天山よふりしとを葉の毛
 葉の毛や葉の毛とを葉の毛
 似るもくとれりしとを葉の毛
 大さくや籠の中よ葉の毛
 佐柳の目録よとを葉の毛
 先任の多念よとを葉の毛
 手もはしとを葉の毛
 世いりよ世結里よとを葉の毛
 豆うらよとを葉の毛

江戸
 本架
 里美
 原谷
 吏川
 民枝
 英山
 幻芝
 南
 林海

十日菊

高き菊や破軍ききめは能
白菊や露の降る月の宵
一葉子高き菊自今五変式
露の降る月の宵白菊の花の上
高き菊のとも菊のさる白菊が
高き菊子かたしとくは燈籠
菊の葉一葉一葉自今五変式
高き菊や能くこれに物ありし
人の身も高き菊の葉を以てし
酒呑みも高き菊の葉を以てし
高き菊の葉を以てし十日菊

思之
相宜
双之
乙老
篠山
若谷
永号
泉池
文里
高

残菊

未枯 菊 酒

十日菊大なる花 高き菊の葉
残菊や菊一葉一葉松のし
以つとも高き菊の葉を以てし
高き菊の葉を以てし残菊の葉
十も子高き菊の葉を以てし
残菊や花園の月の影のこを
菊の葉も十日菊の葉の葉
高き菊の葉を以てし人の身
高き菊の葉を以てし人の身
高き菊の葉を以てし人の身
高き菊の葉を以てし人の身

高
高
高
高
高
高
高
高
高
高

秋

柿

未だ得や住も居なく柿味は
未枯や未だ紅葉有り柿あり
未枯や云々柿と後小居
新の柿白皮まじりも木の香
柿の木の柿もよき重さあり
柿のまじりくも味一山家共
柿の皮剥きおのほん湯居式
柿二本にまじり根の山家共
甲のまじり奇変し柿一本
柿赤く根よき居居れ
柿柿や名も美人の好み

今鳥
山
夕山
一竹
芦帆
三柿
五筵
柿

紅葉

紅葉もよき其の作り家も
様様よ居れよもよき居
之奇異も其の紅葉もよき居
夕山の連もよき居紅葉式
昔もよき居れよもよき居
温純牛内もよき居紅葉式
初也くとも紅葉もよき居
薄白もよき居紅葉式
霧もよき居紅葉式
所もよき居紅葉式
所もよき居紅葉式

前乙
翔堂
斗末
杜質
白起
赤白丸
赤得
改も女
出也
録
宮川

意んんる荷の通るおるあ或
日の廣きく襟元ぬまおるあ或
形くく先まきくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくく
花よりも多仙よ近きまもも
古よりお持もももももももも
お車かかかかかかかかかか
まかかかかかかかかかかか
暮るあや神のけのあのおりく
崎あく程鳥の目先んおるあ或
あくくくくくくくくくくく

下松 家依
一甫 一甫
素必 子松
梅海 波上
田華 乐馬

草珠集

一玉程先く見くくおるあ或
西折の懐てくくくくくくく
近よ程おるあ或くくくくく
まんあうとくおるあ或くくく
特ももももももももももも
右備と月あのおるあ或くく
常くくくくくくくくくくく
寸丈くくくくくくくくくく
おるあ或くくくくくくくく
兄まもももももももももも
二まもももももももももも

昭白 永号 多女 太武 雅因 史子 一横 英山 相百 戸直

草紅葉 折紅葉

人先く初より尺余の紅葉あふ
荒果を産けり近まよもあふ
折して色をみてはるの紅葉あふ
ハカも産けて過ゆくもあふ
株一より穂の付くる。紅葉あふ
あまも採るぬ町の紅葉あふ
老木も産く。紅葉のははら
介とくも産けり。紅葉あふ
産けり。入産けり。紅葉あふ
産けり。紅葉あふ。紅葉あふ
川舟やあまの上の紅葉あふ

實種 産中 産年 山 西阜 布席 一甫 産老 産女

柞紅葉 抽

柞紅葉平次序産紅葉あふ
柞の紅葉あふ。紅葉あふ
葉も厚て人産けり。紅葉あふ
産色は産の産けり。紅葉あふ
産の産よ何の産けり。紅葉あふ
産の産の産の産けり。紅葉あふ
産の産の産の産けり。紅葉あふ
産の産の産の産けり。紅葉あふ

全 之 産 久 産 宗 産 其 産 産 産

推

推の産の産の産けり。紅葉あふ
推の産の産の産けり。紅葉あふ
推の産の産の産けり。紅葉あふ
推の産の産の産けり。紅葉あふ
推の産の産の産けり。紅葉あふ
推の産の産の産けり。紅葉あふ
推の産の産の産けり。紅葉あふ
推の産の産の産けり。紅葉あふ

産 産 産 産 産 産 産 産 産 産

茶葉

茶葉

落粟

耕

草実 拓摺 折実

糖の菓のをきすのてゆるる細が
人の来ぬよなるや産の興
粟粒のなる斗の小産状
花粟や折角粘を食んじ
産糖や喜人も産風をう栗
山の栗まき入産さねを産う粒
栗のあしつはなる栗のさる
栗の食の附を糖と栗糖状
人吐る山伏や折角粘を食
産糖や折角粘を食んじ
栗の菓の附を糖と栗糖状

一丘 一南 木公 文海 惟字 二丘 多女 全 凉谷

〇字

鳥瓜

梅礫

今年采 落穂

知葉菓子なる糖のとを産産状
鳥瓜の産る鳥瓜の産る瓜
鳥瓜の産る鳥瓜の産る瓜
鳥瓜の産る鳥瓜の産る瓜
鳥瓜の産る鳥瓜の産る瓜
鳥瓜の産る鳥瓜の産る瓜
鳥瓜の産る鳥瓜の産る瓜
鳥瓜の産る鳥瓜の産る瓜
鳥瓜の産る鳥瓜の産る瓜
鳥瓜の産る鳥瓜の産る瓜

陸奥 南山 字桂 産子 産子 産子 産子 産子 産子 産子 産子 産子 産子

新蕎麥

新酒

芝草の枯色をくぬき花が
 何れあくも破れとほしき花
 新蕎麥や花あつて花のあ
 一航新蕎麥や花あつて花のあ
 新蕎麥や花あつて花のあ
 中くくし風きき通さぬ花のあ
 少物の花きき通さぬ花のあ
 花月の香きき通さぬ花のあ
 花月の香きき通さぬ花のあ
 花月の香きき通さぬ花のあ
 花月の香きき通さぬ花のあ

六子
 月見
 丁方
 里喜
 芦帆
 字馬
 一蕙
 素太
 梅空
 萬之
 月見

秋暮 抽味噌 濁酒

とわぬく女一村切の山
 作らぬ家おぼろけ酒
 本標のやうもいづれおぼろけ酒
 是連子了運送の河
 只花より烟さのへる女村の香
 淋しは子やおぼろけ酒
 実出の古流を通る花のくれ
 花の香きき通さぬ花のあ
 花の香きき通さぬ花のあ
 花の香きき通さぬ花のあ
 花の香きき通さぬ花のあ

一甫
 一具
 馬洲
 字井
 行丸
 昭眉
 芦月
 全
 素三
 一甫
 里

秋暮

のり

秋暮
秋和
秋

悔悔の一ツ能きく秋のこれ
仕亦たなく出ん秋燈や秋の暮
秋の暮菊露の上の一柱牌
外もたぬ扇秋くもや秋の暮
果とてし飯を急ぐや秋の暮
葉のさやまける葉の秋の暮
暮るる秋の暮
秋の暮老翁の法らき秋の暮
秋のこれとて人よな秋の暮
秋の暮
秋の暮

二丘
多女
西阜
全
如旭
川
其能
葛松
蓬字
整浦
和自

行秋

活風号の候も来る秋の暮
活風号とて子の暮や秋の暮
何もさん何は秋の暮
もさる一秋の暮
木地松も里へ出るや秋の暮
亮短工やを打者や秋の暮
何屋橋の人の往來も秋の暮
も亦くも秋の暮
何橋や秋の暮
何橋や力も秋の暮
葉そのの来るとも秋の暮

二丘
多女
西阜
全
如旭
川
其能
葛松
蓬字
整浦
和自

新緑や世の有給の月よめる
ゆく秋や星のたつと他の中
新緑のそよぐは船徳處
志未寛の烟を消く秋のり
新緑や星もいつくと一又王
ゆく秋のふ言をあらう急
川に秋よ白鳥もたれ梢へ
ゆく秋は秋の送りたれ
ゆく秋や引きこもる秋のり
新緑や東の橋をぬく板
ゆく秋や遠れはりの大橋

不笑
新緑
船徳
白鳥
植葉
廣平
芦舟
尚古
古之
斗玉
宇馬

新緑の意同上はるや山の家
ゆく秋や秋の意同上はるや
ゆく秋や舟の他は秋のお廻り
ゆく秋や物に橋のぬきのを
志未寛の松鳴くも秋のり
ゆく秋の意同上はるや浦の松
ゆく秋の意同上はるや光くれ
ゆく秋をほり合へり小春のり
ゆく秋や一ちりほり夕煙
ゆく秋は意同上はるや秋のり
ゆく秋は意同上はるや秋のり

一甫
雲付
川長
松和
水
水
多よ
竹岫
久藏
萬之
田華

九月尽

控種を伴ふる秋の山並が
標より只節違ぬ九月尽
古手屋を祝て行かぬ日
貴心乳の後もふたねに
参る男を焼きたり九月
折る只生並高木之九月
水橋より下りたり九月
足元の波を踏ぬ九月
蔓草子を引きたる秋の
沙草子や香る秋の
み近く木や山田の檢也橋

秋名残

冬近

一
夕山
志省
一具
西阜
多女
雲
一南
子
子

冬隣

秋題不知

冬近ま秋の波まうつ
をり香や秋の
山田をみ秋の
難多めの秋を
雨二百餘の心と
能やる秋の
麓の垣る室中や
秋毛さる一
吹風の田
吹く
秋の
秋の

松舎
真及
雨
草
里
田
田
大
田
如
羽
白

秋の木のあそびを先くや竹林の
草のそよや鳥居の出入り秋を
あそびくると秋のあそびの秋
人まよくはつる草を秋を

鳥居 秋
鳥居 秋
鳥居 秋

先くはつる此の出入り
客をりし木の秋もむを秋

鳥居 秋

秋のあそびを先くや竹林の
草のそよや鳥居の出入り秋を
あそびくると秋のあそびの秋
人まよくはつる草を秋を

鳥居 秋
鳥居 秋
鳥居 秋

庵下を唄へし秋を西風が
桐の秋の候は秋の候
秋のあそびを先くや竹林の
草のそよや鳥居の出入り秋を
あそびくると秋のあそびの秋
人まよくはつる草を秋を

鳥居 秋
鳥居 秋
鳥居 秋

枕ふても義子附く秋の香
狭延し印さうさげんや巻の
足くわの魚さとうあめくやうまれ
十六枚のふまう星とと来り
河をうくく日鏡麻さる新西
た多きや来はくまれおくく
考出る古法聖文あまの
空かさう侍る禁さあまの
二種三本小楳の中の晩稻
道分もま山草や芋の巻
雁塞四や一枚はま杖の

香和
柏雅
氷竹
糸糸
全全
其水
全全
去丈

茸袴の刀何く乳かちり
狐を去あくくひや魂莫
罌炉を去く寄得あつたれ
雲さうくく丸の袴也一葉
海やえ無たも物くや巻の舟
ゆきさる秋のあつたるやけさ
子格の巻の袖も紙也の巻
菟根を雑さ交を弛き
幕の巻もいさくや極一重
長月や秋を好ま魚さの月
袴黄又極出されさうさく

全全
其水
全全
去丈

狐も乳もあつ程あつ舟も
玉板や乳のつらぬ子の元を
秋も乳飲まなく吹度花
標上の帯串言ふし秋の
名もや木喰まなく後を
折もまよひなくもをれてめ
葉の香もあつたは世を
初もあ折もつたは葉の
舟も一すし出たつ舟
川舟を一つ申すや板光り
舟もや病葉上つ乳もあ

不 粘 擔 今 今 初 今 今 水 其 乙 擔 乙

ハ靴や舟川一舟もあ
板舟もあつ程あつ舟も
舟もあつたは世を
蓮のあつたは世を
舟もあつたは世を
此桔板もあつたは世を
舟もあつたは世を
舟もあつたは世を
舟もあつたは世を
舟もあつたは世を
舟もあつたは世を

全 也 擔 全 全 全 全 素 吐 全

類題十萬句集初編秋之部下終

一 森入りも流の枯るも
結素や折るも春の向
今もや春風の中や吹くも
垣根とて空をよ入や豆腐若
子も折るも使さずやまゝく

全 全 全 全
全 全 全 全
全 全 全 全
全 全 全 全

類題十萬句集初編秋之部下終



非
諧
海
內
人
名
錄
乾

911.3

八

乾



海内人名録序

名も実の實より名を
名の人より名より名を
振ふものハ必 實を名
こそもの 實成つとむる
ものハ必 名より名を
陸奥人を難波人を
集めさせたるもの冊子と
風雅を主人より名を

表編 四海の風文弘通
 をおまふ一海なるをえ
 さりやおのくたは海を
 為さハ風將乃実なる
 のこ
 嘉永元年正月初五日
 後持院格書



凡例

一 近世人名録の書多しとて
 東西親疎を異し一々繁簡ある
 是此舉や海内の能家貴姓印拙
 を録する者一録ある唯此は是の
 弘通を以てしよきものなり二篇小
 以てしよき竊極の者一のなり
 此事をのし一せん
 一人名ハ五十名を以て列次一書小
 漢吳のあり者ハ難ハ昭々文字ハ秋
 名実名ハのしよき漢書を以てし

列セイ西セイ有イウ名メイ漢ハンの類レ也也是是

を二列ニ之之列列別ベツ人ニハハ亦モ有ル字ノ列レ小

累レイハハ亦モ有ル也也又又亦モ有ル吳ウ字ノ列レ

以以之之唱シヤウハハ慣カンハハ文字ノハハ亦モ有ル吳ウ字ノ列レ

以以一一列列別ベツ人ニハハ亦モ有ル字ノ列レ小

以以一一列列別ベツ人ニハハ亦モ有ル字ノ列レ小

以以一一列列別ベツ人ニハハ亦モ有ル字ノ列レ小

從レ也

一漢吳兩音の假名ハ殊小異別列

らハ亦モ有ル也又亦モ有ル吳字ノ列

以一列別人ハ亦モ有ル也又亦モ有ル吳字ノ列

以一列別人ハ亦モ有ル也又亦モ有ル吳字ノ列

索引目次

カウツウ等ノ類ハ彼ト是ト紙

披了求索一モハ繁一モハ余ハ

亦モ有ル也又亦モ有ル吳字ノ列

ア 一表
イ 二表
ウ 三表

エ 十五表
オ 十六表
カ 十七表

キ 十七表
ク 十八表
ケ 十九表

コ 十九表
サ 二十表
シ 二十一表

右糸レヤスキ假字ヲ撮出ノ

サウソウ等の類ハ彼ト是ト紙
 披了求索一々ハ弊一々余の
 出せし準へて其のり

索引目次

ア 一表

イ 二表
 イウイウ
 イヨウイン

ウ 三表

エ 十五表
 エウ エキ
 エン

オ 十六表
 オウオウ
 オツオン

カ 十七表
 カウカウ

キ 二十七表
 キヤウキヨウ

ク 四表
 クワウクワ
 クワシ

ケ 四四表
 ケウ

コ 四九表
 コウ

サ 五五表
 サウ

シ 六十二表
 シヤウシユン
 シヨウシヨ
 シジツ

右 綴レヤスキ假字ヲ撮出ノミ

海内俳家人名録卷上

花屋庵 鼎左
五梅庵 舍用 兩輯
惺庵 西馬 校合

ア

鶯宿

別號此花庵
大坂平野町中橋西

八木方齋

并ふ本たこな

鶯宿

ぬきこもやととまひ

鶯居

別號梅滴庵
伊豫松山

奥平彈正

枝のひびつ虫まきく 鶯居

身ふさひりけり

鴉離

別號涼朝舎
播磨赤穂

安永休太郎

まひりや枝の聲

のこみよき言乃月 鶯居

蛙城 別號 上毛那波郡上宮村 力丸筑波

月あやをきく
蛙城

鶯珠 別號 出羽米澤 板谷彦松

河骨はさき
鶯珠

おくるく月おのち

奥梅 別號 陸奥會津本郷 武内一溪

おるる
奥梅

しそ月あや
奥梅

愛山 別號 梅昏庵 奥州須賀川 道山匡之助

春は夜や誰の
愛山

春を
愛山

蛙喉 別號 古池庵 奥州三春 高橋和多理

言はれやあ家の
蛙喉

灯乃
蛙喉

鶯郷 別號 青陽庵又壽堂 奥州盛岡郡山 渡邊寶庵

門口て
鶯郷

たまる
鶯郷

蛙鳴 別號 垂柳庵 奥州涌谷町 龍淵寺

蛙鳴の
龍淵寺

る
龍淵寺

有節 一號 京都四條東洞院七 五仲庵

松竹小
五仲庵

さ
五仲庵

①

有中 別号春樹園 大坂久室寺町壹丁目 中村宇右衛門

朝日すく木の 一表

粧のやねを

一表 別号臨泉堂 河内牧方 奥田八郎兵衛

飛石里てりり 一表

水初ふ月尺のち

一峰 別号江東舎 河内牧方 奥田一表舎弟

たそこのやわ川り

霞ふきの色 一峰

一挑 別号茶々庵 石見渡津 山根僉襄

是も浮るも 一枕

あらしやすき川

一池 別号友竹園 石見浅利 佐々木豊太郎

夕 飛て動き 一池

止け里山のこぞ

一峯 別号催花亭 紀伊高野 井筒屋藤兵衛

部を築くは

層々清水の南一峰

悠々 別号槐窓 肥前大村 川原元次

書くはの 堀を 修し

本下ふを 頼のこぞ

以推 一号一目庵 筑前遠賀郡拂川村 重住利四郎

花のうらみは 少るを

あらしを 以推

花に里てるり 一畠

水初ふ月尺のち

一峰 別号江東舎
河内牧方 奥田一表舎弟

たそこのせやわ川り

霞ふきの色 一峰

一挑 別号茶々庵
石見渡津 山根僉襄

是尔浮香も 一枕

あしはやすきた川

一池 別号友竹園
石見浅利 佐々木豊太郎

夕死て動き 一池

止け里山乃とせ

一峯 別号催花亭
紀伊高野 井筒屋藤兵衛

部と葉つと葉折

層も久清水の南一峰

悠々 別号槐窓
肥前大村 川原元次

書くともを 堀を 修し

本下尔冬 親のそと

以推 一号一目庵
筑前遠賀郡拂川村 重住利四郎

花のうらみおるを

あらしをうらむ 以推

由太

一号往来庵
筑前遠賀郡拂川村

千々和好琢

いとすやゝるををえ

由太

夷岳

別号長辨居又号巒舎
阿波徳島富田定普請司

寺尾猪平

いつそいそ田ひ

夷岳

やまゆえ方

養爪

一號成々庵
伊賀上野東町

森喜兵衛

よかゆえをよけ

よか

善爪

一清

一号任只齋
尾張名古屋

錢屋喜兵衛

湖のうしろ

いもの夜明の那

一保

一号汝説庵
遠州城東郡池新田村

長尾安五郎

本つこくて

尺伸る時

一具

一号断橋又抱愚
東都中橋横町御油座

一具庵

木うら

久き

由誓

一號坎窟
東都柳橋寓居

為誰庵

聖の子

由誓

え

逸淵

一號影隠居
東都木挽町壹丁目

可布庵

帳

の糸や

逸淵

尾との鐘

伊三吉

一号一珠
東都日本橋通壹丁目木原庄

御玉師玉光齋

一蝶 別号知足庵
東都霞関

一步 別号
東都三十軒堀

一步 別号
東都三十軒堀

一步 別号
東都三十軒堀

雄太 別号濃水居
東都堀江町

雄太 別号濃水居
東都堀江町

雄太 別号濃水居
東都堀江町

一九 一号三世十返舎
東都銀座三丁目

一九 一号三世十返舎
東都銀座三丁目

一九 一号三世十返舎
東都銀座三丁目

酉山 別号
武州羽生領手小林

酉山 別号
武州羽生領手小林

酉山 別号
武州羽生領手小林

由儀 一号
上総水更津在祇園村

由儀 一号
上総水更津在祇園村

由儀 一号
上総水更津在祇園村

逸笑 別号星樹軒
上毛高崎連雀町

逸笑 別号星樹軒
上毛高崎連雀町

逸笑 別号星樹軒
上毛高崎連雀町

尺を合てりや 一 標

播きおろしつゝ 一 標

一步 別号 東都三十軒堀 櫛崎庄右衛門

と申り多戦く 一步

為りし居ふけり

雄太 別号 淺水居 東都堀江町 山口雄太郎

蠅おそ標り 雄を

曳せし御免けり

一九 一号 三世 十返舎 東都銀座三丁目 三浦太郎左衛門

煙るのち葉火の 一九

ちや ちや ちや ちや

酉山 別号 武州羽生領手小林 酒巻兵右衛門

ある時を強て 酉山

あるや火とり虫

由儀 一号 上総水更津在祇園村 鈴木金左衛門

幸ひの居るも里

由儀

ちやりちや 故標

逸美 別号 星樹軒 上毛高崎連雀町 関根作左衛門

ちやちやの東新母しき

張子の水 逸美

一朗 別号掃雲樓
上毛伊香保

永井喜右衛門

而深ていふ
一朗
いもりけいさきのき

一呂 一号
上毛吾妻郡大戸町 市場五郎左門

般若つたて封さる

いもりのね 一呂

一車 別号
上毛吾妻郡失倉村 渡伊兵衛

之是ほさむりて 一車

拾ふ 尾種一郎

一仙 別号丹齋
上毛甘樂郡神成村 深澤市五郎

人中 みる

まは 早うりふ南一仙

一眠 別号
上毛甘樂郡高尾村 修驗 大行院

香のる紫物 舞

のこけりけり 一眠

逸采 一号溝庵
上毛甘樂郡富岡町 三浦三左衛門

仕上ぬこちりら 逸采

るめるのりりれ

一董 別号董園
上毛甘樂郡富岡町 長泉院

夕日や粉め 一董

もりり 一五志

有粒 一号雲庭
上毛富岡町 灸治舎弥善司

遊ばるん流心 有粒

あふぬちりり

一ト 別號唐木堂 信州高井郡岩船 武田市蔵

皇親のありふ 一ト

尺くそ 鐘 砂る

一翠 一號觀月窓 信州高井郡草間 小村吉右衛門

空梅や桶の底 ありそ

軒の清ま 一翠

有中 別號雲錦舎 越後六日町 山本孫兵衛

芭蕉のそ 控て みる

ひま 扇をのり

尤儀 別號 越後五泉町 吉田延之助

縁妻のそ けり 尤儀

一 けり あふり 一

一瓢 別號 越後河根川 吉川縫之助

備 けり 一瓢

さゆり 鉢 ちき

右水 名寛董字用休一號涼 舎佐州相川夕白町 山田稠五郎

二 けり ちき ち水

一景 別號真月齋 佐州相川 黒田文平

門 杉や ちき ちき

あき 一景

一浩 一號梅園舎 出羽米澤宮内 渡邊新弥

片 何く 初ま 一浩

けり ちき ちき

一草 別號破顔 出羽米澤大塚 高德寺

り先やお子の一子
うらり 更衣

一素 別號瀟々舎 出羽米澤荒砥 大貫忠兵衛

こしやまのともち 一素
こしやまのともち

友丸 一号 出羽米澤荒砥 高山友治

り燈の中 一 友丸
かきききききききききき

友于 別號曩峯 出羽米澤荒砥 加藤俊庵

かきききききききききき
友于

洋洋 別號脚陸庵 出羽山形 車屋六右衛門

夕陽り 出羽米澤
きききききききききき 洋洋

郁甫 別號 出羽米澤

門松や宿も 郁甫
きききききききききき

一糸 別號 出羽取上谷地 田宮與之助

美々や宿も 一糸
きききききききききき

一巢 別號一巢舎 出羽取上寒河江 二藤喜八

名月や松り 一巢
きききききききききき

一奇 別号清閑齋 出羽最上尾花澤 安西精一郎

月より涼き 一奇
ひかり 本紙や乃

一羽 別号惟翠庵 出羽最上大石田 二藤部藤太郎

たきしき 一羽
ひかり 中しき

一鳥 別号塘月庵 秋田山本郡森岡村 關戸清安

面粧 さくらさくらめ
きききき 一鳥

一螺 一蹄二三房 出羽秋田山本郡森岡村 教覺院

降しききききき 一螺
ちききききき

一妙 名曰嶽出羽秋田又保田 樂玉山住職奥州南部産 蓮住寺

灌佛 やれぬ 一妙
うらふらの

由人 別号閑聽亭又句難坊又 守静庵奥州白川藩 平田彈右衛門

是或も 云通さんぬ 由人
あきうら

一樂 別号布竹庵 奥州會津赤津宿 良田喜兵衛

あしうけのちふ 一楽
又あきうら

幽仙 別号一草庵 奥州會津坂下宿 上野吉三郎

枝よりあきうら 幽仙
見えぬ橋木の那

一保 別号 松翠
奥州伊達郡来折宿

中村屋藤三郎

然也の芽も 一保

ほこりけり生と云

一僊 一号 泉芳軒
奥州盛岡黒澤尻

物々や提灯 一仙

さげて小半色

以玄 別号 山水亭
奥州盛岡藩住福岡 下斗米見龍

字よ入々 以玄

せり さあさささ

一陽 別号 雲岩
奥州八戸藩 岩泉作右衛門

うゝまのてま

余言の松栢 一陽

有川 別号 紅兼合
奥州津軽青森米町 對馬周助

庭 川

又さけ田植

逸樵 別號 勸農亭又城陽
奥州氣仙郡田茂山 水野桃吉

一寸不五分の 逸樵

苦さや草藁

有隣 一号 花陽亭
奥州氣仙郡立根村 千葉文蔵

一寸りをあそ 有隣

恙初る裕 あゆ

夷説 別号 萬島
奥州氣仙郡今泉 阿部屋徳三郎

梅の枝くうらや

ささあつくり 夷説

一山 別号 奥州東山中川村 小山鉄治

一山 号、孝供 一山

一山 反唇 榮碗

一興 別號一興庵 奥州仙臺佐治 高橋良左衛門

一興 号、大和 乃又ハ

一興 号、花 のヤ万 一興

一笑 一号、梅月堂 奥州水澤宿 法妙院

一笑 号、井乃 一笑

一笑 水汲 水汲ヤ々

一雄 一号、幸守庵 奥州仙臺北材木町 佐藤久三郎

一雄 号、新 一雄

一雄 号、子 一雄

一興 一号 奥州仙臺北材木町 長谷川氏

一興 号、舟 一興

一興 号、橋 一興

一圭 別号袋谷堂 奥州牡鹿郡袋谷地 及川謙助

一圭 号、水 一圭

一圭 号、扇 一圭

一扇 別号嘯月庵 奥州金崎 遠藤宗律

一扇 号、素 一扇

一扇 号、幸 一扇

一由 別号紅花園 奥州大谷村 加茂紋十郎

一由 号、由 一由

一由 号、由 一由

一止 別號 奥州仙臺国分町

宮下氏

和風の吹る

一止

こころ〜て水の月

一曉 別號 奥州仙臺大町

安部屋甚藏

うゝ札きすゝ

一曉

多岐河のたるとん

一義 一蹄天然 奥州仙臺

叢林精舎

為るりり〜

一義

海〜く 小野〜の

一哉 別号無可不可 奥州仙臺

安部氏

ひたひた〜木の一哉

空や〜き

由巳 別號 奥州仙臺

齋藤氏

稲雀〜由巳

白も〜

一丸 別号 奥州

居〜 一丸

〜や冬指

一晴 別号 奥州仙臺八幡町

石井駿河

浮〜の〜

一晴

居〜月〜

一興 別號 奥州吉岡驛

佐々木幸七

ふんたつを結ひ
一興
ふんたつを結ひ
一興

一止 別號 狐形庵 奥州仙臺国分町

宮下氏

和風の町る
一止

て水の月

一曉 別號 奥州仙臺大町

安部屋甚藏

うハ礼きす
一曉

多岐河のたるみ

一義 一號 天然 奥州仙臺

叢林精舎

為るりりり
一義

興 海く小鴨の池

一哉 別号無可不可 奥州仙臺

安部氏

ひたひたの木の
一哉

空やととと

由巳 別號 蒼々庵 奥州仙臺

齋藤氏

稲雀を
由巳

白もさきし

一丸 別号 菽原齋又白蝶 奥州

居を
一丸

とくうや

一晴 別号 鳴鳩庵 奥州仙臺八幡町

石井駿河

冷多の

一晴

居る月

雨外

一辨 虫柳庵
大坂長堀

笹井三右衛門

泡くも囀うつる

るか

ととらこのか

羽霓

別号 田邊庵
備中 松山

堺屋忠兵衛

魚 — ちけて

お粟

時 変わるや 梅の外

耘耔

一号 葉逆屋
備中 妹尾

藤井正左衛門

水音の 次才に

耘耔

二月 後の月

雲外

別号 鳴水樓
土佐 高智藩

中屋隼馬

たらのしちるるる

雪か

雨、く〜く 思ひけり

烏津

別号 鱗龍亭
尾張 鳴海 荒井村

永井松右衛門

をりや二宮のこ

烏津

尺ゆきとやの中

雲青

別号 寒軒
上毛 多胡郡 吉井町

堀越與一郎

雪とさけりよま

しらの梅はうか

雲老

別号 半静居 又 齡外
信州 佐久郡 三塚村

武田傳治

あけをきり 射の

うらやま 五月晴

一州

別号五城井
奥州仙臺通町

安倍昌吉

ふりわりとまや 一州

まど田中塔白き

(ウ) 雨外

一號垂柳庵
大坂長堀

笹井三右衛門

泡くと喉うつる ぶか

さくらこの水

羽霓

別号田邊庵
備中松山

堺屋忠兵衛

身 — かけて おま

時渡る如く抱く外

耘籽

一號栞逆屋
備中妹尾

藤井正左衛門

水音の 次牙に 耘籽

二月の後の月

雲外

別號鳴水樓
土佐高智藩

中屋隼馬

しらのしらのしらの 雲外

鳥津

別号鱗龍亭
尾張鳴海荒井村

永井松右衛門

鳥津

鳥津

雲青

別号寮軒
上毛多胡郡吉井町

堀越與一郎

雲青

雲青

雲老

別號半靜居又齡外
信州佐久郡三塚村

武田傳治

雲老

雲老

雲瀟

別号半天庵又崧岳館
越後見附

澁谷一治

朝の口おきぬき

ひきりし雲のまじり

雲山

一號松庵又竹翁
出羽山形

角屋喜右衛門

念佛 子経

石山

てて立火鉢のち

羽人

別号
出羽最上漆山

半澤九郎右衛門

筆子ついで舟

お人

あきり秋の楓

羽来

別号尚古堂又竹枝園
出羽最上谷地

井上吉五郎

信 ころも

お来

あきり秋の楓

雲外

別号雪窓齋
出羽最上大田驛

丸野永耕

井ふ祝く新や

雲外

あきり秋の楓

雲涯

別号竹夜山人
出羽秋田横堀

小山田英助

あきり秋の楓

雲涯

あきり秋の楓

烏谷

別号
雲水 讚岐産

一夜庵

あきり秋の楓

烏谷

あきり秋の楓

雨石

別号夜話亭
奥州須賀川

石井又右衛門

あきり秋の楓

あきり秋の楓

雲城

一號 遲日庵
奥州會津若松藩

木野義之助

一わのるふうしをら

土守一う如

二五城

字の女

別号
奥州會津城下

薄治右衛門母

籠のむくし 障子 字のめ

屋々々々々々々々々々

雲才

別號 馬陵又南居又電室
奥州相馬新山

富澤職次郎

そしむりそるそる

おてらりけり 五才

雲峯

別號
奥州氣仙郡盛町

鈴木屋傳作

片しりやうそる

啼て農起り 五才

羽翠

別号 玉林舎
奥州氣仙郡猪川村

千葉清藏

ゆき月の光りお 羽翠

消るるりう如

雨竹

別號 楓路庵
奥州仙臺北三番町

赤間氏

や、秋うして 雨竹

孫の言はるうげお

雨柳

別號
奥州仙臺大町

山田屋仲兵衛

笑ふたりほめそる

こるる 粟山子うな 雨柳

映居

別号 雪峯亭
大坂文賢寺町中橋

河内屋伊兵衛

暖のいそるをたらや

のやちのき 映居

(工)

雲城 一號 遲日庵 奥州會津若松藩 木野義之助

一のりるよしり

土守の如し 雲城

字の女 別号 奥州會津城下 薄治右衛門母

籠のむし 障子 字のぬ

魚のくまきくおのり

雲才 別号 馬陵又南居又重室 奥州相馬新山 富澤職次郎

そしむりそるそり

あてとるけり 雲才

雲峯 別号 奥州氣仙郡盛町 鈴木屋傳作

片しむ やうそり

啼て農起り 雲才

羽翠 別号 玉林舎 奥州氣仙郡猪川村 千葉清藏

ゆき月の光りし 羽翠

消る星りうら

雨竹 別号 楓路庵 奥州仙臺北三番町 赤間氏

や、秋しりて 雨竹

孫の言はるうけ

雨柳 別号 奥州仙臺大町 山田屋仲兵衛

笑ふたりほめ

さるお山子うら 雨柳

映居 別号 雪峯亭 大坂又寶寺町中橋 河内屋伊兵衛

暖のいそをたうや

つやちのき 映居

瑤華

別号吉雲亭
東都西义保

泉光寺

石尊ふまゝ来ぬ瑤華

あはれみこひけり

英鳥

一跡星雄舎
東都南鍋町

錦梅治右衛門

鞆鞆やねのあゝを

うたゝら

英鳥

英子

出羽米澤小松驛

大和屋久吉

智新のころ

英子

嬉しき冬にこのま

永谷

別号自生堂
出羽米澤堀金

鈴木榮弥

やゝもて又

永谷

たまひの清水江

天秦

奥州會津青木村

佐藤源太

坂口や志尊の

天秦

人を痛

英月

別号凌雲舎
奥州伊達上郡村

八卷清七

あゝこ子乃

英月

あやぐりきりや

顔甫

別號半閑居
阿州小松島

寺澤市兵衛

灯火のこぼれを節す

浮梁の舟

顔甫

詠久

別号即事庵又龍窓
東都飯倉永坂上

吉田久四郎

昔々く望む望みの
詠久

暑ぬ望みの舟

瑤華

別号吉雲亭
東都西久保

泉光寺

石苔ふまゝに來ぬ瑤華

雨後みづのけり

英鳥

一號星雄舎
東都南鍋町

錦梅治石衛門

鞆鞆やねのあゝを

鳥のこゝろ

英鳥

英子

出羽米澤小松驛

大和屋久吉

鳥新成るる

英子

嬉しき冬にのり

永谷

別号自生堂
出羽米澤堀金

鈴木榮弥

やゝもて又

永谷

志まひり清水

天秦

奥州會津青木村

佐藤源太

坂口や志望の

天秦

人を痛

英月

別号凌雲舎
奥州伊達上郡村

八卷清七

閑々子乃

英月

あけくまの舟

詠柳

別号詠柳庵
奥州槻木

平間榮助

アキハツウチヤクシヤ

トシヨシヤクシヤ 詠柳

英里

別号竹仙亭
奥州志田郡飯川村

工藤屋繁蔵

アキハツウチヤクシヤ 英里

赤の人通り

英谷

別号英谷庵
奥州仙臺

後藤氏

アキハツウチヤクシヤ

英谷

アキハツウチヤクシヤ 菜摘

才

乙雄

別号且暮庵
東都赤坂元馬場

西村氏

右筆ヤクシヤ

乙雄

アキハツウチヤクシヤ

鷗池

一号南岳
淡路高村

船越素介

アキハツウチヤクシヤ

都 鷗池

乙良

別号雪見庵
越後水原

和泉屋忠蔵

アキハツウチヤクシヤ

乙良

アキハツウチヤクシヤ

音好

別号
雲水武州産

紙 葉

アキハツウチヤクシヤ 音好

アキハツウチヤクシヤ

岳鳳

一号鑿園
山城伏見津知橋

古雅屋清右衛門

アキハツウチヤクシヤ 岳鳳

アキハツウチヤクシヤ

力

英谷 別号英谷庵 奥州仙臺

後藤氏

多え ころり 明 英谷

とちのきこりの菜搦

才

乙雄 別号且暮庵 東都赤坂元馬場 西村氏

右 若やゆきよ 乙雄

はきさるおこころ

鷗池 一号南岳 淡路高村 船越素介

る梅やまをさうるそ

都 ころり 鷗池

乙良 別號雪見庵 越後水原 和泉屋忠蔵

厚ちくくや 苔 乙良

あまのりの雲の深

音好 別号 雲水 武州産 紙 葉

是の欲あきふ 音好

たのききこころいな

力

岳鳳 一号 礪園 山城伏見津知橋 古雅屋清右衛門

き浪のこころよ 岳鳳

つゝく 平苗の那

香山

一号芳雪亭 大坂南久太郎町六丁目 紀伊國屋喜兵衛

きよきつりつるよ月も
まら

耕水

別号如雪堂 大坂北堀江三丁目 綿屋新兵衛

渡川をびしとほむ

深きつるよ
耕水

可梁

一号洗心亭 大坂淡路町 大和屋丞兵衛

手あをけを
一の梁

むらあへ二月一のりよ

可兆

一号有隣堂 大坂博労町心才橋東へ 落桃舎

室う海もあぬ
一の兆

峠ふまき田一のり

孝月

一号聚泉窟 楠津伊丹 小西秀助

まのあやまき清と

来たぬ清あ戸
孝月

可樵

一号深茂亭 大和吉野下市林 永田藤兵衛

立清のまき切岩や

まきのつる
一の樵

幹蔭

一号方竹園 大和内山永久寺内 蓮乘院

一字を露ま
幹蔭

このまきをわきまき

雅昇

別号空の亭 播磨姫路 高德平次郎

花標うしろ白りふ

このまきを
雅昇

可咲

一号梅廼屋
備後福山藩

横手弥太郎

人知と一歩一の

う咲

白ふも多秋うめ

霞崎

一号松音舎
備後福山神島町

岩田屋庄平

くまらおあはくく 霞崎

空き柳のよ

泉酢

名令典字子章一号一松
井石見鳥井

宮脇清之助

あまを白や終乃

こぼれ 春松美

霞松

別号九阜園又鳥井
石見

神崎屋善一郎

くろよく旭の 雲松

さん松や 朝のよき

可友

別号
筑前速賀郡登住村

松井仁十郎

溜を流るゝ一歩

の友

ら くの 水

可笑

一号薑花園
筑前速賀郡監屋村

吉田仁七郎

柳 むちきのみめ の笑

やうおあをの柳

霞山

別号
讃州小豆島

山形屋正吉

ちよの 百り 一まきり

ゆや秋のや 二あ山

可中

一号
因幡鳥取藩

山内原録

袂も 入るるま

火あけうめく 一歩

霞崎

一号松音舎
備後福山神島町

岩田屋庄平

くまのちかきくく 霞崎

空き柳のや

泉跡

名令典字子章一号一松
井石見鳥井

宮脇清之助

あまのや終乃

いほん 春松屋

霞松

別号九泉園又鳥井
石見

神崎屋善一郎

くろよき旭の 雲松

さん松や終のや

可友

別号
筑前速賀郡養住村

松井仁十郎

溜る江の 一の友

くろの 水

可笑

一号薑花園
筑前速賀郡監屋村

吉田仁七郎

柳 ふたきのふゆ 一の笑

やうちあをの柳

霞山

別号
讃州小豆島

山形屋正吉

ちよの ちよの

ゆや秋のや 二島山

可中

一号
因幡鳥取藩

山内原録

袂ま 入るる

火あけのや 一の甲

可笑 一号月花園
石見敬川村

名田屋逸右衛門

くさくさの 花の白
の笑
すまゝと 破の如

甘古 一号梅屋
藝州廣島京橋

泉屋所平

ふさうきとる子 甘古
かきり わらわのや

榎堂 別号
相模十日市場

榎本仁兵衛

彌とけハ 移り 板巻
つらとつら けり

荷月 一号涼雲亭
能登輪島

笠屋忠助

葉干ハ ころり
一とや 地の上 月

閑那 一号草帝
紀州高野山

龍生院

柳 月ふりもや 子那
船の 後こり

香丘 一号香丘園 三州吉田札
木町喜久岡 瀬兵衛男 小原瀬一郎

文月 やさそそ 花さそそ
余念 ちうよ 鳥之

雀翁 一号柳雲寺
東都赤坂三木 和泉屋覚之進

よい 明やかくそそ 空の鳥
水の 鳥

可簾 一号野梅亭
東都日本橋四日市 住吉屋喜兵衛

くさくさの 花の白
かきり わらわのや

我生 一号後日庵
武州川越藩

田中克次郎

返く返くるを申すは
をりし月の夜
我生

霞山 別号青葉
武州川越藩上毛前橋住 中島五右衛門

瓜皮のやまにぬくまを
指火のやまにぬくまを

好文 一号梅下窟
武州峯村 梅田赫次郎

鴨鳴也又をさせり
沼の端 好文

加津良 一号沙月亭
武州新久 黒米源左衛門

居も田子ちきりこそ
むらさきも かのやま

霞雪 一号白齋
上総東金町 小林佐平次

むらさき結月の
ももちや 子筆

鶴水 別號千滴庵
上毛高崎 高橋勘兵衛

山の水 くのちのちを
なるりのちを 新水

可考 一号
上毛福島村 角田八郎左衛門

植帯く外をもち
こえぬ葉きこの那

笏言 別号青蓋舎
上毛伊勢崎在稻荷山村 中澤新右衛門

猫柄やむらさき
さへハ己の歌

可柳 別号 上毛花輪

高州水米太郎

一つくいやあも 一の柳

ぢりたるお茶あなよ

岡丘 一号 上毛甘樂郡宮在岐治村 横尾傳治郎

ありあけのひらも 五之

けふぬ一まのりあ

あつこ 一号羊合軒 上毛碓水郡水沼村 下平次右衛門

あつこ 枝り 一のこ

あつこ 枝り

學圃 別号端梅軒 野州宇都宮 森田銓吉

蟬の椽這 學圃

あつこ する一のこ

霞郷 一号佳竹軒 野州宇都宮 植木藤右衛門

袖みつくねの 雲郷

白ひや紙

葛古 一号水篤屋 信州小諸在八満村 小林勝右衛門

拂くくつる雪り

とくもつる戸口うぬ 葛古

可厚 別号松麟 信州善光寺檀田村 松木藤兵衛

雪り 雪露も 一の雪

新沼のらひひのこ

巖 名春政別号羽衣庵 信州高井郡岩船村 武田嘉七

大雪もくつる 佛の

大雪もくつる 雪

好静 一号明暖廬
越後長岡裏町

當銀屋

里ののこし 好静

おんよりちのち

可庭 一号近齋
越後柄尾持項村万年山 曹源寺

野のやち う庭

秋より 奪し

加青 一号梅守
越後菅谷不動之邊箱岩村 吉田羽右衛門

起の焚や か青

むせり 四月のち

好水 一号
越後瀧村 高橋嘉右衛門

木枕の源 と

産 き う な 好水

霞昇 別号仙草庵
佐渡相川會津町 竹本良蔵

来 秋の ま あ 昇

つ て 草 あ 産

可有 一号四望亭
出羽米澤小松 大武傳治

喰 積 や あ る も こ う ち

自 出 度 数 の ち

鶴峯 別号
出羽米澤小出 阿部氏

城 の か し り

そ や と の さ る 新 字

考輔 一号山形庵
出羽山形 本宮小一郎

た と 火 を あ か ふ

垣 板 や 柳 の む 考 輔

可則

一号さうろ庵
出羽取上寒河江

渡部吉次

あまのつゝもすん 可則
ありてまろこもん

岩月

別号流霞亭
出羽取上長崎驛

秋葉彌右衛門

おろー 来て片よる

浪新や鴨こま 岩月

可保

一号
出羽取上柳西道村

菅原桑司

野も山も強る 可保

晴てあきの風

介二

一号
出羽酒田

鈴木介二

黒ましくや刈たる

江のそまふる 介二

鶴二

一号曉窓
出羽秋田城南登町

後驗

龍光院

流まきこりて 鶴二

鶴眠

別号春生庵
秋田山本郡森岡村

伊藤元泰

すりやて友結合ん

涼まの那 鶴眠

鶴賀

一号松齋
出羽秋田仙北郡西荒井村

修驗

自在院

二度ま度試り 鶴賀

曳馬まの那

可大

一号
奥州産兵庫寓居

時雨庵

ま竹や二露ハ 可大

ま木のままのら

可應

別号汪洋庵
奥州會津城下

山口小四郎

ぬるとやるも 徳の 一の石

ひらや 落の 臺

香里

一号松柏庵
奥州會津城下

家城源伍

きし 向ふ 斗の 香里

まや 治 け

鶴志

一号
奥州會津城下

加藤平蔵

照原も 志

凌 智の きのり 斗

甘谷

一号
奥州會津青木村

坂内善七

まの ぶ せ 甘谷

おま ぶ ぶ 子 一 かな

好謙

一号慕雅堂
奥州會津坂下宿

大塚謙治郎

尺 曲 小 葉 の ね 漁

え び も ち り 松 多

可曾宜

一号
奥州三春石森村

本多一八郎

あ くら せ ば ち ぶ

な 秋 の 夕 空

出仙

一號鶴堂
奥州南部二戸領福岡

平碧龍

地 一 空 海 たる 出仙

こ ち や ち ね り 山

香雪

別号点春亭
奥州盛岡藩三戸住

梅内良作

物 局 の か り 香雪

や ち り 林 の ち ね

きし向ふ斗の香里
まや冷汁

鶴志

一号

奥州會津城下

加藤平蔵

照原もさる

鶴志

凌雪のきりり部

甘谷

一号

奥州會津青木村

坂内善七

まのふりそきと

甘谷

おまへり 茄子のま

好謙

一号 慕雅堂
奥州會津坂下宿

大塚謙治郎

尺の用いふまの

好漁

とらふもちり 松

可曾宜

一号

奥州三春石森村

本多一八郎

出でらんをばはち

春 秋の夕 空

出仙

一號 鶴堂
奥州南部二戸領福岡

平碧龍

地一を 厚たる

出仙

こま やまおろし

香雪

別号 点春亭
奥州盛岡藩三戸住

梅内良作

物るのかすとも

香雪

やらん 之林のま

江三 別号一日庵 奥州大河原驛

村井氏

名月や文て 江之

漸く秋の月

可候 一号無朽庵 奥州氣仙郡今泉 菅原屋又兵衛

掃 あま一木いけ 可候

あまや夜の月

霞梁 一号和樂亭 奥州氣仙郡盛町 佐々木義三郎

きみあふのハ 霞梁

あまうけふ初時る

鶴雄 一号旭阜 奥州本吉郡氣仙沼 藤屋東四郎

遊をアそ初時は 新姓

まものやま代新姓

嘉扇 一号香風亭 奥州富谷驛 万谷鶴吉

ゆらんとをいそと 嘉扇

月ありそよの山

可榮 一号松翠亭 奥州富谷驛 細川榮蔵

あそらるきとら 可榮

そそぬ核の形

鶴里 一号千歳庵 奥州桃生郡飯野川 錦織松藏

松の炭文申 鶴里

あまふをきけり

佳綾 別号 奥州杜鹿郡石巻 菊地屋重兵衛

あまや書の 佳綾

あま水けり

高窓

一号
奥州登米郡石森

高橋氏

水多のこや

高窓

比る来てはれ

可仙

一号東桶庵又吉坊
奥州東山松川驛

松河生喜多之助

亥刻迄の月

相や舟の中の仙

鶴人

一号蘭窓
奥州三迫若柳

佐藤屋傳兵衛

梅子を

室人

とあり人を雀のな

可有

別号太幸庵又柳雪園
奥州前澤驛

太田屋幸藏

り燈の流きのな

白の孤のな

可立

一号開涼軒
奥州水澤藩

伊藤圭蔵

水に鮎のな

多のなの入の立

葎岡

一号壺梅樓
奥州吉岡驛

高平又十郎

との数のな

まのなのな

芽陽

一号芳林舎
奥州吉岡驛

佐々木茂右衛門

葉のなのな

とのなのな

好

一号好々庵
奥州仙臺

壹岐氏

日のなのな

光のなのな

鶴人

一号蘭窓
奥州三迫若柳

佐藤屋傳兵衛

梅子 存て

室人

とゆり 尺八を存てのちよ

可有

別号太幸庵又柳霏園
奥州前澤驛

太田屋幸藏

り燈の流きい

このち

白ふ 孤 性 の ちよ

可立

一号開涼軒
奥州水澤藩

伊藤圭藏

水に 鮎 ちよきりや

ちよのちよ入

この立

葎岡

一号壺梅樓
奥州吉岡驛

高平又十郎

ちよの 数 ちよて

葎岡

ちよの ちよちよ ちよ

芽陽

一号芳林舎
奥州吉岡驛

佐々木茂右衛門

葉 さくらや ちよちよ

芽陽

ちよのちよ ちよちよ

好く

一号好く庵
奥州仙臺

壹岐氏

ちよのちよ

ちよ

ちよのちよのちよのちよ

其遊

一号雨夕庵
大坂安堂寺町三休橋南

枡屋東助悻

そくそくそく

そくそくそく

磯遊

一号松隠舎
大坂堀江橋通四丁目

長門谷三右衛門

まらまらまら

磯遊

まらまらまら

箕柳

一号三友堂
大坂道頓堀幸橋北岸

吉岡院

数の子や様よ

ちんちんちん

龜月

別号松汀舎
大坂金屋橋

前島龜太郎

降るの中も

そくそくそく

喜曉

一号松廼家
大坂久太郎町五丁目

松葉屋喜兵衛

幹 尺くぬさくく

咲 たり 松の目

可蕉 一号露月庵
奥州仙臺

大川を傳へて 一の蓮
ささげのうらみ

(キ)

芥舎

別号
京都東洞院西へ

泮水園

月もつちのふりごと 芥舎

ちりぬ宮のうめ

其山

一号木仙居
大坂布屋町

八千房

梅の流るるをみる

水鏡のうらみ

その

其遊

一号雨夕庵
大坂安堂寺町三休橋南

枡屋東助

その名も流るるをみる

その名も流るるをみる

磯遊

一号松隠舎
大坂堀江橋通四丁目

長門谷三右衛

麦秋や休ませ

あるる車

磯遊

箕柳

一号三友堂
大坂道頓堀幸橋北岸

吉岡 院

数の子や妹よ

箕柳

ちりぬ宮のうめ

龜月

別号松汀舎
大坂金屋橋

前島龜太郎

降るの中も

龜月

ささげのうらみ

喜曉

一号松廼家
大坂久太郎町五丁目

松葉屋喜兵衛

幹 尺のぬさくら

喜曉

咲けり松の春

淇水

一号備竹庵又春初舎又
椿園大坂椿井町

綿屋茂七

虫鳴や飼糸

淇水

糸をこめて織るる

其芳

一号清泉亭
泉州左海棧屋町中濱

米屋房次郎

山の井を汲

其芳

すまじきり梅の香

救鶴

一号清心齋又養老軒
南都餅飯殿町

狩阪嘉兵衛

去るるやふ海老

救鶴

剣さるる炭の中

玉光

一号小松庵
播磨姫路龍野町

小林喜助

山里や麦の

玉光

こぼるる砂るる雲

喜雄

一号九日園
播州西宮酒肆

四井久兵衛

清月も風も梅の

花多し水も 喜久雄

曲阜

別号照顔齋
播州伊丹

梶金平

鶯子鳴やよに驛

しのきり一筆所 曲阜

奇翠

一号松石庵
大和古市

馬場少進

雪減てゆり山也

梅と家 奇翠

真嵐

一号一松庵
東濃相

藤枝政左衛門

口をりや度揚て 真嵐

吹 ねり 真嵐

淇水

一号備竹庵又春初舎又
椿園大坂椿井町

綿屋茂七

虫鳴や飼糸

注水

糸しこ 眠るる

其芳

一号清泉亭
泉州左海猿屋町中濱

米屋房次郎

山の井を汲

其芳

すましきり梅の花

救鶴

一号清心齋又養老軒
南都餅飯殿町

狩阪嘉兵衛

去くるくくやふ海を 鶴鶴

剣出る谷の中

玉光

一号小松庵
播磨姫路龍野町

小林喜助

山里や麦の 玉光

こゝろあけり 跡くさる

喜久雄

一号九日園
播州西宮酒肆

四井久兵衛

冷月も山風も梅の

あまのりね 喜久雄

曲阜

別号照顔齋
播州伊丹

梶金平

終子鳴やよに輝

下のきり一筆所 曲阜

奇翠

一号松石庵
大和古市

馬場少進

雪減てけり山也

梅と家 ちの家

其嵐

一号一松庵
東豫柏

藤枝政左衛門

口そりや庭掃く 其嵐

吹 ねりきり

丘外 一号ノ庵
薩州鹿島

隈本喜藤太

名 さもりん 丘外
善福の祈はつき

琴甫 一号獨醒軒
薩州鹿島

石澤加兵衛

松 をてぬり 吾甫
善福 秋の井戸

許風 別号臨江亭
筑前遠賀郡大島居村 許山武四郎

子の戸子減るゝハ 浮也
そそりくめのを

其來 一号二賞樓
筑前遠賀郡竹並村 重住彦九郎

る 館らふと 其來
そそりくめのを

居后 一号一葉庵
日向延岡惣領村 威徳院

ね あめりの四 居后
馬 竈

虬窓 一号
阿波徳島藩 榎原若五郎

い まのまの 用言ふ 蛇窓
後 中 一 うま

亀年 一号
阿波徳島富田裏中町 赤井祐助

教 出 て 傳 の 龜年
又 え ね る 業 外

菊圃女 一号静佳園
伊豫小松藩 長谷部映門妻

東 風 吹 や ま の 子の
戸 の 傳 を 越 し 菊圃め

子の戸小減るは 浮舟

そそけりゆめのそけり

其來 一号二賞樓 筑前遠賀郡竹並村 重住彦九郎

るま館らふと ちよ身

そそけりゆめのそけり

居后 一号一葉庵 日向延岡惣領村 威徳院

ねまありの四三 居后

ちよ身 ちよ身

虬窓 一号 阿波徳島藩 桎原岩五郎

ちよ身のちよ身の 虬窓

後ちよ身のちよ身の

亀年 一号 阿波徳島富田裏中町 赤井祐助

敬出して体その 龜年

ちよ身のちよ身の

菊圃女 一号静佳園 伊豫小松藩 長谷部映門妻

ちよ身のちよ身の

戸のちよ身の 菊圃女

菊雄

別号

土佐高智新市町

改田屋茂助

あまのりちるるふも

ろくろ日 菊雄

虚心

一号日ヶ庵
紀州若山大手前

観音寺

山もや雪別く小

一安心

寄鼎

一号醉月亭
能登中居町

龍尻氏

一知りまそ休むや

落葉 檜 寄鼎

錦水

一号
尾州智多郡半田

小栗半七

瀝土の上水

錦水

澄やあきの風

几藤

別号九花亭
三州吉田札木町

扇屋弥兵衛

るをき入りの

几藤

るしやその如万

貴齋

一号築瀬館
近江神崎郡築瀬村

山田弥兵衛

々朝ハ家々々々

貴齋

あせりうめのむ

琪翠

一号松露庵
駿州江尻在小原村

吉川東一郎

ふ月の水音

琪翠

ふむそ守り

其仙

一号都窓
甲府山田町

京屋新輔

咲不と八門しりも

其仙

遠く移り水

月もいととろけて 昔丸

たまきは 松野うら

きま雄一号
東都大鋸町

閑樹園

りんふささくろく きま雄

山の小まきの那

鬼丸一号
花酔庵
東都尾張町

内田氏

つーやまも 鬼丸

まー免ハ娘ハ一き

龜遊一号
三曲堂
東都吉原五十軒道

萬屋吉六

人の手もろくろく 龜遊

伸り柳うさ

寄三一号
不知庵
武州中瀬

河田甚平

灯よりいそぐ まのこ

日暮の炭火うさ

玉芝一号
武州板戸

横田周民

隅くもぬるこ 玉芝

ささくろくろく 湖水うさ

九華一号
武州神奈川驛新宿

相應寺

こまに身をいそぐ 九華

うらむささくろく

箕山 一号太乙庵
東都青山

葛岡氏

降しちうりるハ 箕山

尺之ぬや ちうりるら

芭丸 一号黙々堂
東都岩井町上納地

小林真七

月もりこととく 芭丸

ちうりるら 松堅の形

まき雄 一号
東都大鋸町

閑樹園

けいんふささささ まき雄

山の小ささの形

鬼丸 一号花酔庵
東都尾張町

内田氏

つーやれも 鬼丸

ちうりるら 免ハ旅ハ

龜遊 一号三曲堂
東都吉原五十軒道

萬屋吉六

人の手もさささ 龜遊

伸り柳うさ

寄三 一号不知庵
武州中瀬

河田甚平

灯よりつささ 寄のこ

日暮の炭火うさ

玉芝 一号
武州榎戸

横田周民

隅くもぬらこ 玉芝

ちうりるら 湖水うさ

九華 一号
武州神奈川驛新宿

相應寺

ちうりるら 九華

ちうりるら ちうりるら

葵白

一号太乙庵
上総山邊郡東金

篠原安之進

まきの足るふて

葵白

り 菜尻の部

旭齋

一号
下総佐原多田新田

東彦太郎

節ノ笠も置て

加高

新茶の帰左の茶

琴堂

別号一籟居
上州吾妻郡大戸

加部安左衛門

朝斗のちる観音の

やちのきこの茶 吾堂

祇備

一号栢月
上毛卧牛山下

橋爪氏

らやうのちるり

祇備

ふ一の雪吹の茶

吟歩

一号篤庵
上毛間仁田

茂木音吉

森くまのハヤシ 水歩

むろの 松の 樹

其石

別号
上毛吉井

近江屋市右衛門

鱒の さくらぎ

一石

中ゆるの和の茶

其翼

一号桐花園又壺関
野州宇都官

石塚東一郎

蓬萊の林下ろろや

日の出の茶 吾堂

其雄

一号百谷堂
野州宇都官

谷屋平右衛門

物らにそんてふ

其雄

まのら茶のろろ茶

其雪

一号

下野小金井宿

勝見屋芳兵衛

喉迄

そと

そとにけり 袖裏のそと

其山

一号 藤舎
越後関驛

常山仙右衛門

紫陽花

そと

そとにけり 下系

環齋

一号
越後妻小口

長谷川銀右衛門

人孔とそと

珠高

月の籠

牛池

一号
越後加治驛

関文左衛門

際立て西のりき

可るう那

牛池

菊谷

一号 洗花亭
出羽米澤西江又

双ふり減る

葉谷

心月のり数うぬく

漁月

一号 市中庵
出羽米澤堀金

情野藤吉

浮海

酒月

乃ちある新柳のそと

其水

一号 金麗舎
出羽山形

福島豊吉

何ぞやそと

そと水

小杉や原の月

旭峯

一号 雄道庵
出羽最上長崎端文右工門新

服部文右工門

庭

旭峯

そとやおろそと

人孔とそしき
月の鑑うり

珠高

牛池 一号
越後加治驛

関文左衛門

際立て西のりき

可るうり 牛池

菊谷 一号洗花亭
出羽米澤西江又

双ふり減る 菊谷

心月のり数うり

漁月 一号市中庵
出羽米澤堀金 情野藤吉

浮海うりて 漁月

乃ある新樹うり

其水 一号金麗舎
出羽山形 福島豊吉

何変りも同 其水

小松や東の月

旭峯 一号雄道庵
出羽最上長崎端文右工門新田 服部文右工門

庭うり水の 旭峯

コトやおるり

近峯

一号
出羽東上谷地

森谷與吉

たつたきやほりのくさ

あさ山の月
と山

匡芝

一号月山禁
出羽東上寒河江

大久保兵藏

冬杵やりの

匡芝

あさきりそよつと

丘雨

一号
出羽東上大石田

二藤部兵三郎

夕月のせきも

丘雨

一雪の海

唸風

一号弄月園
出羽秋田藩注子阿仁前田

庄司為吉

佐保ひめのかき

唸風

白の木の子

菊仙

一号陽園舎
出羽秋田城下

谷屋文右衛門

雪の居掛

菊仙

あさきりそよつと

玉水

別号野中庵
秋田久保田下亀町

児玉玄熙

水海ふき

玉水

あさきりそよつと

舉一

一号
大坂雲水

旦久庵

夜の月

あさきりそよつと

均外

一号逸庵
甲斐東八幡雲水

古屋氏

あさきりそよつと

均外

雪解の田

巨山

一号

越後産雲水在仙臺

影よすまるるの

巨山

さゆゆさや香の音

亀玉

一号萬歳舎
奥州白川驛

萬屋伊助

さしゆきる梅も

龜玉

ささるる清水の音

喜山

別号探翠亭又何庵
奥州赤折驛

大島屋本右衛門

る鶴のふらり

喜山

新や梅のそよ

亀鶴

一号壽榮軒
奥州伊達郡伊達崎村

石幡榮之助

ちるををあり

龜鶴

のそそちるのえけり

兜風

一号夏涼庵
奥州相馬鹿島驛

多田新八

ひそ飯て世日も

兜風

とよやーうめ乃をな

金英

一号

奥州會津坂下宿

三瓶善八

さぬうち虫をくま英

多き林檎のな

已明

一号水器亭
奥州會津坂下宿

澤田健吉

低けきと山を

こゆ

おくあり花の音

望園

一号曉邨又滴聲舎
奥州會津城下

星舊七

風やゆき

望園

ささるる岩の音

旭 一号千鶴庵又和鶴軒 奥州松前城下 杉原嘉兵衛

又も人のおふ 旭

新ちりー苗代田

已有 一号修竹廬 奥州松前城下 佐藤專作

常盤木の蔭葉や

何のちもちりー 已も

曾齋 一号海眼樓又娛志 奥州松前城下 小川礫二

うつ波の砂小 寫高

せんりー 秋の風

亀陵 一号朝日庵 奥州津輕弘前 兼平又内娘

ちきい子のあまらき

なる子鞠うねり 亀陵

歸昇 一号山遊亭 奥州盛岡土澤町 近江屋寅之助

後干てきりー 歸昇

船ありちる柳

季遊 一号竹林舎 奥州盛岡本町 常陸屋内甚太郎

風鈴もこりー 季遊

まきほりー

其竹 一号 奥州盛岡花巻 盛屋徳治

何あそりそ 其竹

聖系女秋のそふ

鞠我 一号生々堂 奥州盛岡藩花巻住 中野簡五郎

再くやら常 鞠我

なほ今りかき

金水 別号巖ヶ舎 奥州盛岡花巻

井筒屋磯吉

洗濯より竿の 釜水
挽むや 柗のそと

玉之 一号燕ヶ居 奥州盛岡黒澤尻

町にまゝく灯も 玉之
たそけ 峯の月

錦苔 一号 奥州盛岡立花村

長沙さけりけ錦苔
うつやめりそな

錦岱 別号不老庵 奥州桃生郡飯野川

今野屋大助

田つらつらふ家の錦岱
あけやまの月

錦城 一号淡園 奥州志田郡飯川村

加藤屋泰三郎

為壇や余所の 錦城
時白の 新うたを

吉三 一号 奥州杜鹿郡石巻

伊藤屋吉兵衛

流ふまゝり 流る 吉三
獨活芽の白ひま

喜高 別号 奥州涌谷町

米澤屋米吉

機織虫の聲 喜高
おくや 作り山

玉樹 一号止月庵 奥州三迫若柳

三浦屋京藏

友ゆきとてかたうら
ゆきのけのむら

虬山

一号桃日庵
奥州水澤驛

高橋屋與平治

ひより持舟を
ねらふ柳のな

幾美女

一号
奥州水澤驛

少年
山形屋

舟ひらり二つ小
きみめ
ちりりてはまのり子

董路

一号生々庵
奥州前澤

志和玄継

船のまくら
なやまや楳のり
董路

亀川

一号
奥州伊具郡角田

早川清右衛門

しらねや二つよ
亀川
ちのやまをまくら

曲三

一号井田
奥州宇多郡新地

清野貞治

裏の楳毎日
ゆえに
ゆえに

淇水

一号春路庵
奥州吉岡驛

柴田屋門蔵

水の伸も
ゆえに
柳のな

亀村

一号
奥州名取郡笠島

大内俊平

水一沙のな
亀村
ちりりてはまのり子

其友

一号梅代庵
奥州三迫若柳

阿邊屋友吉

病のこねらさぬ
るのあざし

そ友

虬山

一号桃日庵
奥州水澤驛

高橋屋與平治

ひより持首を
振る柳

虬山

幾美女

一号
奥州水澤驛

少年
山形屋

舟ひらり二ッ小
ちりりてはまのし子
きみめ

董路

一号生々庵
奥州前澤

志和玄継

船のまき
そかまや楳のり

董路

亀川

一号
奥州伊具郡角田

早川清右衛門

もろのや二ツよ
ものまきしをくわ
亀川

曲三

一号井田
奥州宇多郡新地

清野貞治

裏の栞毎日
こえら 栞のり
妙之

淇水

一号春路庵
奥州吉岡驛

柴田屋門蔵

水の伸も
まの柳のり
淇水

龜村

一号
奥州名取郡笠島

大内俊平

水一沙のまき
ちりりてはまのし子
龜村

其徳 一号千年竈
奥州仙臺堤

庄司源七郎

引 新ぬきつらつら

舞や神の森 其徳

中二 一号柳窓
奥州仙臺

本郷良助

新ゆきふき 中二

ひるあつらふらふら

蟻堂 一号
奥州仙臺大町

山田氏

さきまきりしこひきは 様を

平稻のみちのり

起石 一号麗新庵
奥州仙臺南町

村上東吾

一渡しあつらふら た石

納海むきふけ

魚遊 一号玄く舎
奥州仙臺肴町

奥田五郎右衛門

囲ひ木の中心うら

まやゆきのる 魚遊

其山 一号
奥州仙臺肴町

大久保屋茂兵衛

白魚や笹 こまの

四石枚の雪氷

几州 一号伸屈庵
奥州仙臺

有住恒三郎

たむ帆り吹 はあ

成りたりものた

琴睡 一号邊柳庵
奥州仙臺

橘川桂之允

碓石やるるぬ 其味

くしらうふまの白

光林

別号自在庵大坂島内
八幡筋太左衛門橋西

三木光林

鉢植の匂も

光林

もろもろとくの外

卦龍

一号詠歸堂
大坂堀江

小島卦龍

蓮のよさを誇ふ 卦龍

鳴りや都の月

花兄

一号清香堂
大坂安土町并池東

鑑屋利助

加茂川や少石の中流

つらつら

花兄

花紅

一号笠亭
大坂福町

矢田善兵衛

り秋や恋ふ

花紅

やせむる花の歌

禾秋

一号野月庵
大和郡山

八尾屋利助

管弦ひびく事も

小菜畑

禾秋

花嘯

一号蓬月庵
大和郡山林木町

宇野源四郎

梅さくらやきるひよ

花嘯

中ハる水車

禾堂

一号
肥前大村藩

堀池春悦

咲—おもふ

禾堂

—おもふひハのそな

木明 一号 京都島原

木津屋清蔵

あまの風やあまの 木明

うげたる 船の掬

光林 別号自在庵大坂島内 八幡筋太左衛門橋西 三木光林

辨極の白も 光林

もろまんきり外

卦龍 一号詠歸堂 大坂堀江 小島卦龍

道のよさを誇ふ 卦龍

鳴りやねの月

花兄 一号清香堂 大坂安土町并池東 鑑屋利助

加茂川や少名の中は

つらつら 花兄

花紅 一号笠亭 大坂福町 矢田善兵衛

り秋や恋ふ 花紅

やせたる荒の歌

禾秋 一号野月庵 大和郡山 八尾屋利助

やがたひねりまらね

小菜畑 禾秋

花嘯 一号蓬月庵 大和郡山材木町 宇野源四郎

梅さくらやまらひよ 花嘯

中ハる水車

禾堂 一号 肥前大村藩 堀池春悦

咲くもよみ 禾堂

一もちり 一ハのそな

化昇一号
土佐高智

馬淵彌助

常よりきつと
化昇

貫志一号
伊賀木興里

油屋平兵衛

枝まゝのすまね
貫志

黄山一号
尾張名古屋廣井南天道町
吉原五左衛門

くまのる平能の
黄山
塩たしるけり

完伍一号
東節又藪雞舎
三州寶飯郡牛久保
大黒屋嘉助

まきそを海も
完伍
まきそを海も

花明一号
東都御濱御殿
池永貞太郎

書を押水書
花明
書を新樹の

瓦村一号
聽水舎
東都橋場
田中忠八郎

枕も書以故の
瓦村
書板の

貫河一号
下毛日光
小野金之助

音物と書さ
貫河
音物と書さ

和柳一号
玉橋舎
下毛足尾
板橋吉之丞

あしと月日
和柳
あしと月日
しげと里松柳

枝まゝのすゝめ 黄志

あつゝのすゝめ

黄山

一号

尾張名古屋廣井南天通町

吉原五左衛門

くまのる平體の 黄志

塩たしるけり

完伍

一号東節又藪雞舎
三州寶飯郡牛久保

大黒屋嘉助

まじりてあも 完伍

まじりてあも

花明

一号

東都御濱御殿

池永貞太郎

雪を押し水音 花明

雪を押し水音

瓦村

一号聽水舎
東都橋場

田中忠八郎

枕も雪の故の 瓦村

雪の故の

貫河

一号

下毛日光

小野金之助

音物と音と 貫河

音物と音と

和柳

一号玉橋舎
下毛足尾

板橋吉之丞

あしと月日 和柳

あしと月日

うけと里松柳

和哥喜 一号若木庵
出羽山形

若木屋清八

々年林七ツの 和哥喜
をば伐らぬ

懐橘 一号玉翠堂
出羽最上谷地

櫻田源蔵

詔の子は薫も 懐橘
吹きてまきあけ

花佛 一号米水
出羽庄内五日町

佐藤氏

山越てやうく 花佛
日のあけを 四月外

花真 一号
奥州會津城下

神田大次郎

三日月を照してアキラヤ
花真

和同 一号晚成庵
奥州二本松領小濱町

秩父氏

夕表ハ皆 和同
乃冬木や冬のやう

觀之 一号花月庵
奥州盛岡藩三戸住

中島治郎兵衛

人の出さず 觀之
汐平の物々しき

貫三 一号貫山居
奥州盛岡藩花巻住

中村徳司

雲とくは 貫三
とくはくく 鐘うり

懐云 一号
奥州牡鹿郡牧濱

吉祥寺

物くや 懐云
ふる葉はくく在

永川 一号芳流舎 奥州三迫若柳

松島屋卯之吉

月代を足てたら 永川
桐の花子うら

和堂 別号 奥州岩谷堂

木村屋長兵衛

意不二を指し 和堂
葉山子の長矢うら

花兄 一号百歩園 奥州氣仙郡高田

村上屋治助

こまをたぬらふと
志すは月の影を兄

華月 一号 奥州氣仙郡今泉

富田屋武之助

川越しとさき 華月
うらひをの意を分

永月 一号 足了庵 奥州仙臺

横田氏母

うらひをの影を 永月
ひをきあのうら

永山 一号 奥州仙臺 足了庵裏

提灯をうらふ 永山
水や木槿ちる

郭露 一号 睦友庵 奥州仙臺 八幡町

安達與吉

船おろき汐の 郭露
光りや友の月

月桂 一号 東嶺園 大坂過書町井池

鴻池太藏

ゆきをうらむ 月桂
ちるはるら

月人

一号曲松園
大坂境筋油町

岩井平三郎

ゆきしるし改り
けり 又 衣 日 人

月洲

列号花耕園
攝津伊丹在今米

川中五良平

ききとる 雲の 目 海
けり きやき柳

蕙雨

一号叢園
伊勢竹川

高木典膳

汐の引 波を 蓋る
返るよ けりこ子

月古

一号前蕨園
阿波徳島富田中園

児島衛八郎

動く糸の 雫りて 目古
たたくの 板の 牌

元史

一号常庵
土佐蓮池町

河崎屋六三郎

押ひとん まのせて え史
しるしりむの 陰

玄至

一号翠蓋庵
尾張名古屋橋町

吉良万藏

五月雨 やあき 玄至
あたらしく ちかたつふ

蕙逸

一号
近江栗津

幻住庵

ききく 出てるめり
ゆきしり 柳の葉 蓋る

月舉

一号竹屋
近江八日市濱野村

中澤善助

ききくの本 蓋る
ききしり 月舉

見外

一号人間世廬
東都日本橋洋世小路

菊守園

釣附
五月可那

月窓

一号癡絶庵
東都三田薩摩藩

又土目氏

焼魚の
付く
楳火

月村

一号白眼臺
東都青山五十人町

寺山源六郎

素阿志
たの

月夕

列号啄花庵
東都浅草山谷

花屋猪之輔

こ
は
柳松橋

元甫

一号梅花軒
武州川越藩上毛前橋住

岡田政平

涿の中
元甫

馨松

列号還暗堂
武州榎戸

横田半十郎

ま
学
馨松

月雄

一号夜坐亭
武州金川在寺尾

野澤久右衛門

お
の

月江

一号春花亭
上毛富岡

加藤恭齋

移
梅の

桂舟 一号月海堂
越後米田

田村屋傳六

山彦の山を
桂舟
たきくさきぬ梅のさよ

月溪 一号月溪樓
佐州相川

赤名屋武右衛門

空くさきぬ梅のさよ
もやるさき一落のさよ

月山 一号真如亭
出羽米澤川井村

桃源寺

吹くさきぬ梅のさよ
蓮のさよ

月窓 一号
出羽米澤糠野目

耕福寺

あさけさきぬ梅のさよ
桂のさよ

桂谷 一号斜流舎
出羽米澤荒砥

芳賀幸右衛門

尼寺や雪も
流さぬさきぬ梅のさよ
桂谷

月松 一号新井庵
出羽米澤上失白

小關三郎左衛門

短杖も夕永も
白松
さきぬ梅のさよ

月悠 一号知足庵
出羽最上寒河江

石山佐助

松林のさよ
白松
降もさきぬ梅のさよ

桂僊 一号
出羽酒田

富樫権介

機よさきぬ梅のさよ
桂仙
浦邊のさよ

堯雨 一号五風庵 出羽秋田阿仁小澤田 鈴木勘右衛門

子の房のつむ 堯る
おろしり ①もとの

幻亞 一号楓堂 上毛群馬郡中鄉村雲水 小淵氏

この膝やまろそ 幻亞
んまろり ①ハセ

曉窓 一号 奥州須賀川 山邊春齋

は芝やろり 曉窓
あまろり ①膝のまろ

桂山 一号移風亭 奥州會津坂下 町田山三良

月又風居ろり 桂山
根とまろり ① 桂山

桂留 一号克巳亭又退文舎 奥州會津坂下宿 武藤新四郎

能ろり やひろり 桂留
ろり ① ② ③ のまろ

桂舟 一号自省亭 奥州會津坂下宿 高橋傳助

は糸物花和水をまろり 桂舟
おろり ① ② ③

桂風 一号春暮亭 奥州本宮驛 小川氏

あろろ やろり 桂風
ーまろり ① ② ③ の隅

月聲 一号閑窓庵 奥州盛岡藩花巻住 小田代元八

柵に水の流ろり 月聲
あまろり ① ② ③ のろり

桂芽 別号 奥州氣仙郡高田

大乘院

相の言をきくを桂芽
すゑのしるしの言

月川 一号松翠舎 奥州氣仙郡立根村

金野鶴松

初月やうらをきて 月川
居るに沈みし先

挂月 一号 奥州仙臺佐治

田口屋喜兵衛

系宮のたより 挂月
言うに楳をよ

蕙風 一号蕙雅堂 奥州三迫金成

鈴木安吉

尺をこころを 蕙風
あつる言をよむ誦のよ

圭枝 一号仙久軒 奥州水澤驛

菱屋留蔵

雪人も尺をぬ 圭枝
けりけやまらけり

月江 一号東雲舎 奥州水澤藩

及川俊良

病も秋ハ 月江
立寄り指ひけり

月槁 一号襟庵 奥州吉岡驛

梅津氏

呆古る木に 月槁
移るはけの言

吾柳 一号菊通屋 大坂北久太郎町下町

升屋甚藏

横らさく少ねの 吾柳
うげやまの言

古鏡

一号
河内交野郡津田村

前川近三郎

乙名も浴て

古鏡

うらり後祓川

古鳳

一号自在庵
土佐高智藩

尾崎弾次郎

古鳳

古鳳

壺通

一号
土佐高智蓮池町

田村屋久兵衛

川岸翁也

壺通

紅顔

一号白蓮臺
備後福山

妙法寺

脚、ち田う、梅ひけり

紅顔

悟一

一号泉ヶ舎又花月亭
播州姫路住

平福屋五三郎

子清さくさみ

悟一

長井某

五鈴

一号竹過家
伊勢松坂

長井某

追々たりや栢野の

五鈴

江波

一号
加賀金澤

鳥翠臺

来り人なり眼之も江波

子清さくさみ

湖雀

一号翰林堂
江州八幡

近江屋勇助

田植唄乃江

越

古むら 一号 越過屋 東都

常見榮次郎

麦の葉やまき 古むら
いりもるもるぬき

古山 一号 東都出雲町

三行堂

秋咲やのぬ 古山
あしを定まら

叩月 一号 耳毛翁 東都深草瓦町

長岡佐兵衛

降ぬげとあつ 叩月
ねてやう 月令首

古春 一号 随郷舎 東都箱崎町

神戸儀助

伐をむるふ あま
一重ちる牡丹のよ

吳城 別号 喜園庵 東都外神田富松町元地

滋野氏

海くさくさ 信ふやう 吳城
くりにあまのり

吳丁 一号 白水庵 相州中依知村

萩原半左衛門

ーのうちよ 吳丁
アウリ 五十鈴川

五渡 一号 有磯庵 武州妻沼

大和屋定吉

名目やあまのぬ 五渡
あまのの子 五渡

護民 一号 武蔵西園 武州中相原村

齊藤弁次郎

二首もくし 御とあま 護民
あまの月 護民

五雀

一号不説庵
武藏落合村

泰雲寺

元白も聖まろ松入

たけりまげり
五雀

谷朗

別号撫石堂
上毛吾妻郡岩下村

西山太郎右衛門

雪の如樹の
谷朗

数も雪の如の如

壺水

一号
上毛新町宿

笛木増右衛門

帚木より漆
壺水

雪の如の如の如

五鈴

一号東風軒
信州高井郡千出邑

鈴木氏

掃
あらし様の
五鈴

砂もや柿の花

古棠

一号清華廬
越後湯澤驛

高橋半左衛門

象味のふ程
古棠

しるしを田の如

貢齋

一号含露窓
佐州中原村

矢田日向

雪折
英高

一松や松の影

谷守

別號聽濤
佐渡雑太郡竹田村

羽尾甚左衛門

萩の如の如の如

方や雪の如
谷守

吳朔

一号
出羽米澤城下

奥村鍋助

藤の如の如
吳朔

沁らるる雪の如

合部又町うつりも

あー子枕 弘湖

故厓

一号
相州産雲水

青霞庵

とらふもあつて

故厓

つるりり山の 雲石

虎竹

一号千行亭
奥州伊達郡伊達崎村

石幡虎次郎

楊柳や川

扁竹

あつたる子の上

江山

一号
奥州會津城下

山寺權次郎

ゆたりの終

江山

あつたるりの原う那

湖月

一号湖月庵
奥州會津城下

多記宗迪

あつたるりの終

湖月

あつたるりの終

湖水 一号竹園
出羽山形

大串武七郎

十六夜のつるハ 水

ニ是之是之の部

五瓢 一号五瓢庵
出羽山形

後藤屋俵助

るの傘標乃 五瓢

とつらびとたえけ

湖洲 一号
出羽最上谷地

本木仁平次

素起よも昭の 湖洲

つをあねたま回のな

弘湖 一号一昔居
東都雲水

遠山氏

合歌よ町うつすも

あー子枕 弘湖

故居 一号
相州産雲水

青霞庵

とらふもあつて 故居

つらふ里山の雲

虎竹 一号千行亭
奥州伊達郡伊達崎村

石幡虎次郎

楊柳や川 痛竹

あつたる子の上

江山 一号
奥州會津城下

山寺權次郎

ゆたりの江 江山

あつたる子の原の部

湖月 一号湖月庵
奥州會津城下

多記宗迪

あつたる子の原の部 湖月

あつたる子の原の部

湖流 一号如斯庵
奥州會津鹽川驛

齋藤直藏

水飯やよりき
よけききの船より

互扇 一号雪堂
奥州盛岡藩三戸住

種市和藏

一雨のりやき
ふきききききき
互扇

古山 一号霞洞
奥州氣仙郡今泉

吉田喜助

ひびきききききき
おろりぬ秋の風
古山

五葉 一号松花亭又亀尾庵
奥州氣仙郡下有住

鈴木庄右衛門

ふりりの帆影よ
あきききききき
五葉

五柳 一号将明舎
奥州三迫若柳

畑岡屋大六

けりけりけりけり
あきききききき
五柳

五葉 一号
奥州吉岡驛

中興寺

伸きききききき
けりけりけりけり
五葉

谷水 一号
奥州吉岡驛

佐々木仲八

あきききききき
あきききききき
谷水

瓢中 一号屯菴
奥州仙臺堤

梅津屋庄吉

あきききききき
あきききききき
瓢中

五雲 一号西南居 今田美作

晴る 暮れておぼは 五重

くもりや たるのる

吳春 別号自笑 奥州仙臺 野村氏

あめあまの神 雲去

風ある日 水うけり

公木 一号蒼風庵 奥州仙臺

あめあまの神 公木

等茶やつ清水

古推 一号清静庵 奥州仙臺南町 浅野屋理平

鳥のひやうり 古推

足中やひるの月

① 草居 一号穿花亭 大坂安堂寺町五丁目 岩井平右衛門

雪瑞ておれと 子石

家ありくめのおきな

左夕 一号馬明堂 大坂堺町 吉田屋政兵衛

地まけそ日和 左夕

空ろ 柳うきな

左栗 一号花林屋 攝津伊丹在今米 中九兵衛

まきののまや庭 左栗

あふしと結お白

山雨 一号 肥後天草本戸 大谷氏

あふしと 山雨

あふしとあふしのめおを

公木

一号蒼風庵
奥州仙臺

市のつらりす

公木

等深やつ清水

古推

一号清静庵
奥州仙臺南町

浅野屋理平

鳥のつらり

古橋

足中つひるの月

卅

草居

一号穿花亭
大坂安堂寺町五丁目

岩井平右衛門

雪瑞てはれと

子石

家ありうめのをよ

左夕

一号馬明堂
大坂堺町

吉田屋政兵衛

地まけそ日和

左夕

空ろ 柳のよ

左粟

一号花林屋
攝津伊丹在今米

中九兵衛

きくのまや庭

左粟

雪ふりし結物白

山雨

一号
肥後天草本戸

大谷氏

そら

山雨

そらそら雪のめり

物茶まつて看て 茶雷

あまく白足うらよ

左一 一号楚乃日庵 阿波完喰浦 田井久左衛門

石 落咲やうみの白

中もも明ぬる 七一

彩霞 一号無逸 阿波徳島 西彦右衛門

さうりやうこまぬら 彩霞

きりぬ 茶木のこま

乘陽 一号夏日庵 阿波徳島 美野次郎左衛門

菜のこまや唐一 茶湯

海りの林下川

山月 一号 阿波佐古 山月堂

錠餅の漆も 山月

解る 海うら

三岳 一号推乃屋又再少年 三州吉田 鈴木与兵衛

春もやうくかー 之島

海もや 菜程加

山蓑

一号江庵
薩州鹿兒島

恒見伊右衛門

打擲して茶を

山蓑

ちい〜ぬ雪の柴

雙鳥

一号龜生庵
日向延岡

後藤新兵衛

別際ちりを多も

長鳥

茶をちめてさとの入

茶雷

別号六外庵又九龜井
阿波徳島富鹿馬匠町

板東紋藏

煎茶斗て吞て

茶雷

あろく白足ちりよ

左一

一号楚乃日庵
阿波完喰浦

田井久左衛門

石路咲やけりの白

ちりよ明ぬる

七一

彩霞

一号無逸
阿波徳島

西彦右衛門

きりりちりこいぬちり

彩霞

きりぬ茶本のちりよ

乘陽

一号夏日庵
阿波徳島

美野次郎左衛門

茶のちりよや唐つ

茶湯

海りの林下川

山月

一号
阿波佐古

山月堂

鉦鉦の湯よも

山月

解る茶のりよ

三岳

一号推乃屋又再少年
三州吉田

鈴木与兵衛

茶もちりよか

之岳

茶もや茶種加

山子 一号對松亭
東都中橋御油座 込山弥七

あなをとりてぬきせり
るのこをなかり山子

蒼池 一号月守
東都鉄炮洲 松谷半二郎

ちりあのこころをり
アとえて梅林若池

茶曉 一号
武州神奈川驛 師岡屋伊兵衛

杜の灯のそえ来
ちのそよのそえあふ

草雨 一号揚芳樓
野州宇都宮 福田屋治助

長玉さのあかり
アゆるや花のや万

三通 一号年花庵
武州坂戸宿 木藤金右工門

雪の風は雪を消
はなす時多の如

茶友 一号水壽軒
武州鴻巣宿西小倉林村 堀甲次郎

葺物の屋合坂の
清水うね

三去 一号一遊居
東都四日市

明石屋喜八

只一本の
光をさすぬきくちのよ

山方 一号竹葉舎
東都

池田大次郎

雪をかくし
木の石もそのまゝら

山子 一号對松亭
東都中橋御油座

込山弥七

あなをりてぬきたり
るのこまなけり山子

蒼池 一号月守
東都鉄炮洲

松谷半二郎

ちりあつて
尺えし梅林若池

茶曉 一号
武州神奈川驛

師岡屋伊兵衛

杜の灯のそえ東
ちりあつて

草雨 一号揚芳樓
野州宇都宮

福田屋治助

長ふさのあつち
尺ゆるやあつち

三通 一号年花庵
武州坂戸宿

木藤金右門

雪の風を解そ消
はなを解そ消

茶友 一号水壽軒
武州鴻巣宿西小倉林村

堀甲次郎

草雨のそえ合坂の
清水うね

山敬

一号高巢
信州高井郡安源寺村

石田氏

しんこうまをよむ

山敬

しんこうまをよむ

草山

一号初月庵
信州高井郡草間村

小林武右衛門

くさやまをよむ

しんこうまをよむ

茶山

一号六合庵又松叟
周防産越後見附住

松岡氏

ちやまをよむ

ちやまをよむ

三亭

一号髯壽庵
越後三林里

大竹惣右工門

さんていをよむ

さんていをよむ

茶来

一号
越後魚沼郡上野村

西永寺

ちやまをよむ

ちやまをよむ

左琴

一号有無庵
佐州相川

山田友次郎

さきやまをよむ

さきやまをよむ

傘落

一号杉齋
出羽秋田城下

佐藤富五郎

かさおちをよむ

かさおちをよむ

三鳩

一号枝徳亭
出羽秋田北内小木村

藤原喜兵衛

さんきうをよむ

さんきう

さんきうをよむ

茶来一号
越後魚沼郡上野村
西永寺

らるる せし 成 家 鴨 の 茶 来

まゝ 行 け ぬ

左琴一号有無庵
佐州相川
山田友次郎

箏 や 塙 の け て う ら

ひ と ち の の 免 左 馬

傘落一号杉齋
出羽秋田城下
佐藤富五郎

さ くら ー 井 の さ ら さん

け ー ぐ 家 鴨 茶 傘 落

三鳩一号枝徳亭
出羽秋田北内小木村
藤原喜兵衛

し ぞ ぞ の 中 ー さん 三 鳩

そ の ち り の 如

才公 一号 枇杷堂
出羽米澤城下

中村才助

七子の巾より
才公
芥ねの白ひのり

左琴 別号 竹陰
出羽米澤小出

竹田清五郎

やどり木も満る
左馬
一喜もさくらさこの地

茶丘 一号
出羽米澤小出

伊藤有恒

ちきりたる茶
茶丘
あしとらる牡丹

双浦 一号 蛙聴庵
出羽最上吉川村

有澤榮七

左のよりのそく
井のよき景東 双浦

蒼山 一号
出羽雲水

栗之本住

えりおの松あや
蒼山
伊勢のぶらり鐘

窓古 一号 香信舎
出羽最上谷地

田宮次三郎

りねよすの松
窓古
鳴るらんをりくす

藻鏡 一号 露月亭
出羽尾花驛

柴崎作次郎

お推て又
藻鏡
そりりや萩のそり

蒼山 一号
出羽最上土生田

遠藤慎七

り原や傘
蒼山
たむけのそり

茶三

一号石華齋又栗園
奥州會津坂下

五十嵐清兵衛

ひるたらの節

茶三

ちのり

三省

一号
奥州會津坂下

松井嘉藏

三

三

三

三林

一号竹光堂
奥州會津坂下

小林相助

三

三林

三

三泉

一号静和堂
奥州磐城湯本

油屋為吉

日枝り

三泉

三

纒

一号
奥州三春石森村

佐又回二郎太郎

三

纒

三

三帛

一号一篤齋
奥州盛岡藩花卷住

上田氏

三

三帛

三

左月

一号夜每庵
奥州盛岡

一

左月

一

艸外

一号十種庵又淋齋又卍
中舎奥州盛岡

本登宇姓

自

三

三

杉芽 一号 粹庵
奥州仙臺

山本 父次郎

あきくさしよ白ハ

杉芽

ワ祢つ毛儕のう那

三好 一号
奥州登米郡不老河原

須藤亀之進

杉のうけよなうても 乙好

のけまゝるう那

巢子 一号 雪柳亭
奥州登米郡石森

菊地留吉

浪 乙好 吹申る

巢子

所や少松引

山水 一号
奥州牡鹿郡石巻

美濃屋九吉

のきをくそはえな

山水

水よりなる桂う那

三川 一号

奥州牡鹿郡石巻

及川榮三郎

ありたけの葉

三川

控より十粒うな

蒼草 一号 二川亭
奥州牡鹿郡鹿股

高橋源蔵

ふりまもつうふ

蒼草

山家の清水うな

窓竹 一号

奥州岩谷堂藩

及川甚作

木の根が割き

窓竹

こひてあきの風

山来 一号 子日庵
奥州岩谷堂

鍵屋兵右衛門

海よりこぼる

山来

野のうらやまの岸

象山 一号緒水庵
奥州古川驛

武田道碩

垣外ハ家略の 象山
汚走黄菜の形

山道 別号松柏齋
奥州水澤驛

辻山屋又兵衛

戸插てよぬ水の 山道
こゝろく 尾毛 うま

桑里 一号旭升亭
奥州山目驛

金野幸太郎

桑里の外のも 桑里
くろくろやこゝろ 竹

左竹 一号倚石堂
奥州亘理驛

鈴木十郎右衛門

掃除して退付草一の
白ひうま 左竹

壮山 一号竹層亭
奥州須賀川

道山莊吉

若菜つむんと
かゝるきり 壮山

三朝 一号青陽舎
奥州大河原驛

高橋忠次郎

杜ををちまそねの月
すゝしきや 之形

三無 一号二擬庵
奥州仙臺

國分氏

海棠やます
ほききり 三無

三恵女 一号
奥州仙臺

五梅庵裏

竹槍の端
やまや庭子履 三恵女

始風

一号 京都寺町二条

小倉源兵衛

さらさらのてより
始風
地へ免りやおきく

松隣

一号 桂花庵
大坂福島逆櫓松

清水源兵衛

あはれよのきりて
松隣
はくくもひらうら

松室

一号
大坂井池筋修道町

可川園

急りの折
松室
こゑてちる柳

子雀

一号 文蛤舎又蒼江
大坂堀江橋通四丁目

浅野安兵衛

澄月の木のらふ
子雀
あまむのき

松吟

一号 輕風舎
大坂南坡新地二丁目

清水利兵衛

こつもや一枝とやうも
松吟
松こころ

秋亭

一号 業画
大坂嶋之内并池

田中氏

あはれとやうも
秋亭
あはれとやうも

松塘

一号 月泉亭
大坂幸町一丁目

辰巳屋伊右衛門

あはれを拂ふ
松塘
あはれや枝つら

秋崖

一号 翠煙亭
大坂四橋

小山清兵衛

あはれとやうも一枝
秋崖
あはれとやうも

初咲 一号香風亭 高橋梅太郎

大坂道頓堀千日前

初咲

似蘭 一号鮑魚肆
備津兵庫津 藤田得三郎

弓抄も掛り

以多京

此松 一号松隱居
泉州堺南半町 松本雅助

卵のそまや垣外り

此松

秋宜 一号嘯月舎
河内八尾 鍋屋四郎兵衛

水やう免のそま

秋宜

松眉 一号鶴堂
河内注連野 田中藤九郎

笠程くく

松眉

如一 一号九々亭
播磨姫路龍野町 井上彌太郎

柳ちる

如

十竹 一号燕尾亭
播磨赤穂新濱 田淵幾右衛門

十竹

十竹

春陰 一号松星堂
紀伊高野山 真城院

淡雪

真城院

思風 別号不擇庵又盤磚舎 高木真蔵

清くゆく夜のつら 思風

来止しる能うの如

松丈 一号松屋 阿波徳島藩 津田清作

うめつらまや牛の 松丈

出りの能うの如

恕園 一号 阿波徳島藩 林榮二郎

移 曳や子のあゝ 恕園

おをを歌きり

順美 一号 阿波徳島藩 前野兵太夫

羽のつら 白ひの 順美

おをを 神えその子

筭路 一号 櫻樹閑室又閑苑 阿波徳島佐古下目搦筋 森崎彦之丞

釣初 一もの花ハ 筭路

るお 牧場つ那

市鷗 一号 土佐高智藩 横田四郎八

市鷗 とつらうらよ 市鷗

そす 横たの如

習竹 一号 無鎖庵 土佐高智 本田屋太助

よきるや水り 習竹

つらら水のさる

蔣池 一号 淡路柳澤村 廣田五兵衛

もよひて吹 蔣池

もよひて吹 蔣池

箕路

一号櫻樹閑室又閑苑
阿波徳島佐古下目搦筋

森崎彦之丞

釣初しもの花ハ

箕路

ふみね牧場の那

市鶴

一号
土佐高智藩

横田四郎八

市鶴しといふくちよ

市鶴

そしり横の那

習竹

一号無鎖庵
土佐高智

本田屋太助

習竹しるや水り

習竹

そしり水の那

蔣池

一号
淡路柳澤村

廣田五兵衛

蔣池しる池

蔣池

そしり山の那

如泉 別号 近江日野

野田氏

雪乃採婦

ゆきくさ 採婦

二仙 一号一生舎又橘果園 伊賀上野 吉川彦右衛門

ふめららそくふても 二仙

きくや菊の苗

雀叟 一號 伊勢津 三谷甚左衛門

神ハヤコトツヨシーらさぬ

後之の如 在史

而后 一号暮雪亭 尾張名古屋京町筋益屋町 伊藤道喜

庭木の如き 而后

たそさむやまのつな

春松 一号若泉亭 尾張知多郡半月 山本彦右衛門

春の白松や 春松

はるの白松や

秋夢 一号策隱又無為庵 三州吉田本町 美濃屋文大夫

お月干る中そ 秋夢

ゆきくさ

秀竹 一号青園 三州吉田札木町 備前屋庄兵衛

竹の葉の上 秀竹

あきくさ

洒雄 一号 美濃厚見郡切通村産 伊藤氏

毒菌もとの 洒雄

あきくさ

四山

一号東幻住庵又不二庵
東都青山

瓢

界

一とせのらんけんふ
降しる深きうを

松什

一号無有庵
東都古人

鈴木安五郎

秋結とゆふをたう
よるこころうを

四端

一号風草庵又苟充亭
東都霞ヶ関藝州藩

福永氏

聖りたのぬまのう
あふしとくまの四端

松堂

別号俳三昧
東都西久保神谷町

松村正兵衛

折きくらんも
たうより二百灸

松堂

秋香

一号風也坊
東都橋町二丁目

澤田屋隠居

合歌さくやなも
つらぬ一筆

尋香

一号
東都南茅場町

時雨庵

車一廻り
かみ
材衣

肆山

一号
東都東茅場町

瓦松庵

一変空風ふ
まらむそり

此中

一号
東都通四丁目横丁

此中庵

松の聲に子か
澄き物きくら

若海

一号對朝堂
東都銀座町三丁目

三浦平六

庭もけりき 楠を
石のこふきり

十口

一号
東都牛込

播くこふ控を
けり 苔を屑
十口

淳了

別号天直庵又迷曉
東都田所町

萩生氏

書の百り月も
欠りり 十口板
淳了

支英

一号碧林
武州八幡山新宿

河内屋永輔

昇る旭のちひゆく
こゆる 雲の如
支英

掌道

一号烏江庵
武州児玉郡都島村

鹽原良吉

谷峰ハニ度り
りきり 花の如
掌道

真壽

一号豊穀園
武州青梅上町

横川瀨右衛門

庭風をふこ下を
りきり 砂粒の如
真壽

心足

一号平花庵又白禱陰
又白鬘翁上毛高崎

高井左衛門大夫

人もまぬたりめ
心足
けりりや極のをな

真葛

一号
上毛前橋在樋越村

峯岸園右衛門

著てふりてこりり
りきり 花の如
真葛

まき合うるらるる子 申渡
あるの壁のむ

真笑

一号
下毛下菱村

周藤新右衛門

改うるそゆまや

男 真笑

秋壽

一号玉潤舎
野州宇都宮

五十嵐與左衛門

とるうらるねよ 秋寿

引立もみちらうま

紫蘭女

一号松月庵
野州宇都宮

佐野屋與兵衛妻

鞠豆のたふれ 紫蘭女

たふれり 練のうら

松水

一号青く居
上総東金町

布留川小左衛門

晴まらるるま 松水

ふゆの松

二鳩

一号
下総香取郡小野村

玉井仁兵衛

ふゆまらるるま 二鳩

岬の松子 二鳩

心星

一号松、庵
上毛桐生

川島真平

心星

心星

如松

一号梅、山草
上毛花輪

石原英之助

如松

如松

如松

申溪

一号
下毛足利

小蔦庵

申溪

申溪

申溪

真笑

一号
下毛下斐村

周藤新右衛門

真笑

真笑

真笑

秋壽

一号玉潤舎
野州宇都宮

五十嵐與左衛門

秋壽

秋壽

秋壽

紫蘭女

一号松月庵
野州宇都宮

佐野屋與兵衛妻

紫蘭女

紫蘭女

紫蘭女

松水

一号青く居
上総東金町

布留川小左衛門

松水

松水

松水

二鳩

一号
下総香取郡小野村

玉井仁兵衛

二鳩

二鳩

二鳩

怒号 一号西園
越中新川郡三日市驛 北山屋傳三郎

甲子 杖の尻 乙子

一ノミ 乙子

市猿 一号
越後村松

松 市猿

一ノミ 乙子

潤松 一号雲雀庵
能登中号町 真浦氏

淡子 程芹の松 涇松

長く 甲乙なり

樹三 一号優々舎
佐州相川 高橋伊左衛門

物月 やまえの 樹三

瓜の よみなり

春海 一号
佐州相川 前田徳平

あら 風名の すまの 春海

み 乙子 や 納豆汁

芋光 一号芳齋
佐州相川 前田増藏

ゆり 乙子 乙子

乙子

志月 一号
羽州山形 米屋長吉内

乙子 乙子 志月

乙子

椴古 一号一豊庵
羽州山形 松坂屋安藏

乙子 や とり 椴古

乙子

四曉

一号了藏庵
羽川米澤振金

觀善寺

倒き木のり傳

四曉

り清水のり

萩尾

一号
羽州米澤官驛

小松氏女この

うつきてやく

萩尾

おもたぬおきよ

笋牙

一号不忠庵
出羽米澤糠野目

大丸屋二次郎

かきこりしおきりし 笋牙

月さすしゆふ庭のり

松華

一号徳齋
出羽米澤糠野

富澤屋勘兵衛

片側に二重りし 松華

ゆきし 梅のり

二見

一号波月庵
出羽米沢矢自

佐藤與右工門

ちのりの葉一 二見

きしを任アおのり

自来

一号松鯨庵
出羽最上寒河江

遠藤龍助

しんしんろろ小嶋の 自来

かきこりしおきりし

秋月

一号
出羽最上谷地

月岡養達

そろり瓜やりの 秋白

かきこりしおきりし

二丘

一号桃鼻亭
出羽最上漆山

半澤久次郎

ちのりの葉の 二丘

かきこりしおきりし

周谷

一号
出羽村山郡谷沢

木村吉十郎

汲揚る水よ

周谷

うらやまの岸

汝松

一号藤泉舎
羽州米沢東藤泉

濱田五左門

一うらやまの業も

汝松

あらうらやまの岸

新甫

一号柏陰
羽州米沢産粟

本田氏

又月とつふひるそ

あまのね

新甫

如松

一号登旭亭
出羽最上大谷村

白田忠三郎

あまのね

如松

りこのそら

似湖

一号月廻家
羽州最上稻沢

工藤虎吉

出羽のそら

あまのね

似湖

松和

一号華明庵
出羽最上吉川村

笹嶋左衛門太郎

らうらう

松和

あまのね

自言

一号自得菴
羽州秋田御物川

西館文之丞

あまのね

自言

あまのね

如桃

一号壽水庵
羽州秋田阿仁米内澤

木村長藏

あまのね

如桃

あまのね

松霞

一号曉齋
出羽秋田久保田猶山下濱

安部良吉

ふゝおのり

松霞

おまゝのち

如聲

一号子櫻齋
出羽秋田山本郡能代

腰山政司

ふみおのり

おまゝのち

春宥

一号野梅庵
大坂雲水

上原氏

おのり

おまゝのち

春湖

一号
甲州産雲水

無事庵

おのり

おまゝのち

拾山

一号
三河産雲水

おのり

おまゝのち

拾推

一号
京都産雲水

おのり

おまゝのち

春濤

一号
奥州白川驛

山富屋幸次郎

おのり

おまゝのち

春海

一号
奥州勿来驛

吉田慶次郎

おのり

おまゝのち

春湖 一号
甲州産雲水

無事庵

春湖
中又を春湖と云ふ

拾山 一号
三河産雲水

花を聲もを春湖の
ちとりの水 拾山

拾推 一号
京都産雲水

雪のりも春湖
松根の柳 拾推

春濤 一号
奥州白川驛

山富屋幸次郎

人聲を聲も入ぬ
春濤

春海 一号
奥州勿来驛

吉田慶次郎

春海
春海

紫山 一号竹窓

寶來寺

数ハヤハシヨクノ 紫山

尺ハヤク切ヨク

松風 一号南月庵 奥州三春藩

横田判治

三音ハヤクハヤク 松風

水菜の音ハヤクハヤク

如猿 一号真似留庵 奥州三春藩

小笛吹蔵

水多の音ハヤクハヤク

ハヤクハヤクハヤク 如猿

雀笑 一号吟雪齋 奥州三春藩

佐塚廣記

ハヤクハヤクハヤク 雀笑

志ハヤクハヤクハヤク

脩 一号 奥州三春石森村

佐又間九内之介

ハヤクハヤクハヤク

ハヤクハヤクハヤク 脩

鷓尾 一号迦陵庵 奥州岩城小名濱

役祐簡

ハヤクハヤクハヤク 鷓尾

量ハヤクハヤクハヤク

松圃 一号對月庵又春窓 奥州會津塩川驛

豊島蔦吉

汲ハヤクハヤクハヤク 松圃

量ハヤクハヤクハヤク

如丸 一号一引舎 奥州會津塩川驛

栗村久左衛門

ハヤクハヤクハヤク 如丸

ハヤクハヤクハヤク

而厚 一号松芽庵
奥州會津坂下

二瓶宗右衛門

人の成る畑うら
揚るそま在う那

松翠 一号
奥州會津城下

関孫吉

短衣の人さるぬ

街う那

松翠

芝風 別号静観亭
奥州會津若松藩

鈴木宗吉

汐先の足えつる

小まくの那

芝風

松露 一号松葉舎
奥州會津城下

塚原久之助

坐向むやちりきくも

午阿也さ

松露

指月 一号
奥州相馬中村

まつ年やもらる 指月

たしよる池の鯉

壽月 一号壺中庵
奥州吉岡驛 吉田善助

子のゆ 越して 壽月

さるやさるの水

止岡 一号
奥州吉岡驛 奥野満吉

一粟のまなぬ 止岡

品中や月の暈

壬子 一号松庵
奥州吉岡驛 小島左織

難をさるひや 小島

空まうらうさ

カシノノ池の鯉

壽月

一号壺中庵
奥州吉岡驛

吉田善助

子のゆー越ーて 壽月

よきもやーの水

止岡

一号
奥州吉岡驛

奥野満吉

一粟のてをよぬ

止岡

品中や月の暈

壬子

一号松庵
奥州吉岡驛

小島左織

鯉を煮るひらや

ノミ

空をうらうらとーき

自得

一号幕庵
奥州水澤藩

高橋勘十郎

鐘のなるき里也

白乃

ほつふ初務

秀女

一号
奥州水澤驛

山形屋

くくくくくく

秀女

坂口つまはる春)

如拙

一号福壽軒
奥州水澤驛

伊勢屋伊八

秋之如旭の

如拙

くくくくくく 枕もや

秋水

一号六亭
奥州水澤驛

山形屋大助

查るやま

秋水

くくくくくく 法を治

七女

一号
奥州水澤驛

岩井屋

玉なきのくちハ

七女

くくくくくく 舟の舟

支滴

一号快月樓
奥州水澤驛

菅原屋惣兵衛

り 支滴を治る

支滴

くくくくくく

くくくく

壽満女

一号桃李庵
奥州志田郡伊賀

朝倉氏

くくくくくく

壽満女

くくくくくく 春のやま

而交

一号柳屋堂
奥州登米町

福島屋良三郎

水際をくくくく

而交

くくくくくく

壽満女

一号桃李庵
奥州志田郡伊賀

朝倉氏

トトヨク

そのを

壽満女

たしなむく 寿のよ

而交

一号柳屋堂
奥州登米町

福島屋良三郎

水際を

而交

夕を水

順清

一号 奥州岩谷堂藩

鈴木順清

あまもや揃

あまも引く小

順清

昌岐

一号甲乙庵 奥州岩谷堂

益地幸三郎

何とよや秋ハ 昌岐

あまも入水の音

此友

一号 奥州岩谷堂

只野屋龜之助

あまもあまも

此友

あまもあまも 芦の鴨

守口

一号 奥州桃生郡寺崎

渥美喜左衛門

山里や余の揃ハ 守口

あまもあまもあまも

之桃

一号珠竹庵 奥州登米郡不老河原

首藤繁吉

折下葉を引立

之桃

あまもあまもあまも

子筭

一号芳柳亭 奥州富谷驛

内海萩藏

あまもあまもあまも

あまもあまもあまも

車両

一号桃く庵 奥州桃生郡飯野川

昆野屋清吉

戸にまて 人語ふ 車両

あまもあまもあまも

二栗

一号 奥州相馬中村

あまもあまもあまも

二栗

あまもあまもあまも

二瓢

一号藪中庵
奥州伊達半田銀山下

阿部金六

よきと降しあま二瓢
風もつゆ子の那

如酒

一号春草亭
奥州富谷驛

北目周作

松をみく音をきく
おろり雪の東風

春人

一号遊蝶園
奥州古川驛

成田屋勇吉

り秋やま空
うゝるのふる

秋女

一号
奥州金ヶ寄

嘯月庵内

短衣や植木に
秋女
おろく水ゆり

者来

一号牡麻庵
奥州牡麻郡石巻

水澤屋作兵衛

文一やら灯も
者来
おろりあつてする

庖月

一号東卓庵又旭洋齋
奥州東山保呂洞

小野寺繁次郎

くら川よ舟
庖月
おろりあつてする

怒堂

一号壽々園
奥州東山大原驛

小山文輔

もーろた〜浦
おろりあつてする

春芙

一号寶草亭又甫藤
奥州東山幌羽村

子川のたり
おろりあつてする

心哉 一号 奥州一之迫築立

徳熊久五郎

あゝ舟一を 心哉
かおくてそらうゆわ

松亭 一号月波樓 奥州三之迫金成中村氏蕃医 熊谷壽安

漕りせそ舟一を 松亭
くもねもきくき

如吟 一号松濤舎 奥州氣仙郡高田 伊藤屋百治

積ちけくそよも 如吟
あゝる ぶき業一の那

春翠 一号柳之舎 奥州氣仙郡高田 村上屋久平治

芙蓉の風を 村上屋
あゝる 一の那

秋好 一号交齋又秋のや 奥州盛岡藩 新築地星姓

抄初て芒伸一と
里ひたり 秋好

春調 一号松眠舎 奥州盛岡藩福岡 山部文太郎

やゝ風もくきく
ちう ぬき屋 春調

常丸 一号壽川亭 奥州盛岡八 松橋氏

石ちのゝみ やゝみ
りの風もくきくき 常丸

松山 一号 奥州盛岡中橋川岸 平井勾當

喜柳やまき 松山
延る 寛敷

松尚

一号雪亭
奥州盛岡藩

田中館長在齋門

善風如一首

松尚

たう、久ハ一首たけ

如爐

一号好龍園又禮、居
奥州盛岡

橋内姓

夜、柔よたのきけ 如爐

たう、ると月源

如風

一号北水館
奥州盛岡藩花巻住

柏葉氏

吹止て鐘の音

如風

くもる海堂の如

日當

一号地藏庵
奥州盛岡花巻

養林寺

鳴子引 音も

日當

つ、えそ林生る

車陸

一号東漢舎
奥州盛岡鬼柳

阿部三助

秋也や五人をよせぬ

浪一舟 車陸

春調

一号梅亭
奥州盛岡郡山

若狭屋幸助

善てとととと

春調

名刺のつる給一の如

如山

一号壽亭
奥州盛岡花巻

山形屋源五郎

驚ふふふふも

如山

足さへんゆりて

紫琴女

一号對流亭
奥州盛岡城西

中山氏

このよすあそ

紫琴女

ちうふとせそり 秋の風

如樵 一号三眼居
奥州松前城下

柴田主水一

風呼ハ枚の 如樵

せしう せまる やしあふ

而先 一号河海庵
奥州松前城下 佐藤玄樵

夕きさゆり 櫻ハ 而先

しきう るんけり

二葉 一号二葉亭
奥州松前城下 吉川石太郎

灯よ少ーの 来る

秋の宿う那ー 二葉

松華 一号二木庵
奥州仙臺領入間田邑 大正院

きそ やこ空の 松華

ゆきー 空のみ

秋山 一号
奥州仙臺 齋藤卯兵衛

きよげて月の 秋山

きよや 空の 雲

心阿 一号夢々庵
奥州仙臺八塚 阿弥陀寺

あつも 見えそ 心阿

きよー や眉の 雲

二鶴 一号林和亭
奥州仙臺新傳馬町

輝ちく や夕の 二鶴

ちん けく 松林

志方 一号竹園
奥州仙臺南町 大和屋司兵衛

よき 枝うの 志方

伸ーうの 雲 柳の ぬ

芝庭

一号作珠庵
奥州仙臺

大内氏

舟にひもるる

芝庭

粟多のほすまゝ

市曉

一号紅梅庵
奥州仙臺大町

中村屋徳藏

山よ山こらるる

市曉

みづもる

如雲

一号錦翼園
奥州仙臺塩倉町

松居榮藏

このくまのたきこ

みづ

よのぬの友水

舎用

一号思初
奥州仙臺南町

五梅庵

高きこの望免ハ

海一そのる

舎用



